

第 I 部

計画編

1. 雲仙プラン100（本文）

雲仙プラン100

平成23年12月

雲仙プラン100策定委員会

雲仙プラン100策定委員会 委員名簿

◎専門委員

(敬称略、順不同)

所 属	氏 名
元 環境庁長官官房審議官、元 財団法人国立公園協会理事長	瀬田 信哉
株式会社JTBコミュニケーションズ九州代表取締役社長	小俣 郁雄
有限会社大渡企画・設計代表取締役	大渡 剛弘
株式会社梵まちづくり研究所代表取締役	吉田 道郎
財団法人阿蘇地域振興デザインセンター事務局長	坂元 英俊

◎行政等委員

(敬称略、順不同、()は前任者)

所 属	氏 名
雲仙市長	奥村 慎太郎
島原市長	横田 修一郎
南島原市長	藤原 米幸
長崎県 環境部 自然環境課長	河野 通治 (中島 順一)
長崎県 企画振興部 文化観光物産局 観光振興課 企画監 (長崎県観光振興推進本部副本部長)	町田 博昭 (大濱 政敏)
長崎県 島原振興局 管理部長	西 貴史 (古賀 康典)
国土交通省九州運輸局 長崎運輸支局首席運輸企画専門官 (企画調整)	森山 鉄郎
環境省 九州地方環境事務所 国立公園・保全整備課長	中島 慶次
自然公園財団雲仙支部長	中島 順一 (君野 昌二)
(社)長崎県観光連盟専務理事	土井 正隆

◎地域委員

(敬称略、順不同、()は前任者)

所 属	氏 名
(島原半島地域委員)	
島原半島観光連盟 会長、南島原ひまわり観光協会 会長	楠田 喜熊
NPOがまだすネット理事長	近藤 一海
雲仙市観光協議会 会長	津山 信一郎
雲仙市小浜地域審議会 会長	宮田 隆
小浜温泉観光協会 会長	山下 浩一
島原温泉観光協会 会長	水元 敦実 (大場 正文)
雲仙百年の森づくりの会 会長	宮本 秀利
第5回ジオパーク国際ユネスコ会議組織委員会 事務局長	杉本 伸一
(雲仙温泉地域委員)	
雲仙を美しくする会 会長	七條 健
雲仙ロータリークラブ Re. Born 雲仙50実行委員長	宮崎 高幸
雲仙観光協会 会長	石田 直生
元 雲仙旅館ホテル組合 組合長	豊田 康裕
雲仙旅館ホテル組合 組合長	石田 総一
雲仙商店協同組合 理事長	本多 善彦
雲仙自治会 会長、小地獄・札ノ原自治会 会長	森 義春
雲仙婦人会 会長	内田 香苗 (豊田 悠躬子)
雲仙湯の町通りを考える会 会長、雲仙温泉まちづくり事業委員長	加藤 一隆
雲仙市観光協議会 副会長、島原半島ジオパーク推進連絡協議会員	加藤 宗俊

◎オブザーバー

(敬称略、順不同、()は前任者)

所 属	氏 名
国土交通省長崎河川国道事務所長	大儀 健一
林野庁長崎森林管理署長	中原 一則 (西中 美芳)

雲仙プラン100策定・雲仙地域ワーキンググループ名簿（順不同、随時募集、10月25日現在）

	所属、役職など	氏名
雲仙地域ワーキンググループメンバー	1 雲仙観光協会環境景観保全保護委員長、雲仙旅館ホテル組合副組合長	宮崎 高一
	2 雲仙小学校PTA会長、雲仙観光協会交通アクセス対策委員長、雲仙旅館ホテル組合副組合長	福田 努
	3 雲仙観光協会雲仙ブランドづくり事業委員会委員長	林田 政晋
	4 雲仙旅館ホテル組合専務理事	七條 彰宣
	5 雲仙ブランドづくり事業委員会副委員長	本多 勝雄
	6 雲仙観光協会理事、雲仙ゴルフ場(株)役員	関 貴治
	7	佐々木誠一郎
	8 雲仙青年観光会直前会長	関 幹雄
	9 雲仙青年観光会会長	松野 純也
	10 雲仙青年観光会副会長、雲仙旅館ホテル組合総務部長、雲仙観光協会雲仙ブランドづくり事業委員会副委員長	石田 直正
	11 雲仙青年観光会専務理事	荒木 正和
	12 雲仙青年観光会総務委員長、雲仙旅館ホテル組合企画部長	石田 真隆
	13 雲仙青年観光会 会計	加藤 隆太
	14 雲仙青年観光会 50周年事業委員長	福田 統光
	15 雲仙青年観光会 会員活動委員長	小林 友幸
	16 雲仙青年観光会 広報宣伝委員長	村上 輝晃
	17 雲仙青年観光会 イベント委員長	福田 智弘
	18 雲仙青年観光会 社会福祉委員長	森 佑一郎
	19 雲仙青年観光会	内田 裕一郎
	20 雲仙青年観光会、環境省雲仙自然保護官事務所アクティブレンジャー	中藺 洋行
	21 雲仙遊悠実行委員会会長、NPO法人長崎コンプラドール理事	田浦 元
	22 雲仙市ガイド協会副会長	佐々木雅久
	23	松尾 亜樹
	24 雲仙市観光協議会、雲仙ブランド委員会	荒木 美智子
	25	市来 勇人
	26	広瀬 竜太
	27	杉澤 恵美
	28	柏瀬 楽人
	29	小松 慎弥
	30 ガラス工房 Glass アーティスト ヘアメイクアップアーティスト	濱里 麻紗子
	31 雲仙温泉街の駅	藤島 康弘
	32 雲仙温泉街の駅	永吉 操子
	33 雲仙温泉街の駅	瀬崎 拓男
	34 雲仙観光協会 事務局長	秀山 裕史
	35 自然公園財団雲仙支部、雲仙お山の情報館副所長	西 久幸
	36 環境省雲仙自然保護官事務所自然保護官、雲仙青年観光会	加藤 雅寛
	37 長崎県島原振興局 総務課係長	松田 芳充
	38	柴田 英知
	39 雲仙市 観光物産まちづくり推進課	木村 新悟
	40 雲仙市 観光物産まちづくり推進課	三宅 勝也

雲仙プラン100策定・島原半島ワーキンググループ名簿（順不同、随時募集中、10月25日現在）

	所属、役職など	地域	氏名
島原半島ワーキンググループメンバー	1 Inter Media 一級建築士事務所 代表	島原市 有明町	佐々木 信明
	2 休暇村雲仙 支配人	雲仙市 諏訪の池	瀬井 英生
	3 島原半島観光連盟事務局	島原市	高橋 伸
	4 農事組合法人 守山女性部加工組合	雲仙市 吾妻町	馬場 節枝
	5 川上製麺	南島原市 西有家町	川上 貴弘
	6 島原半島ジオパーク推進連絡協議会事務局	雲仙市 小浜町	松尾 純伯
	7 写真家	雲仙市 小浜町	竹馬 朋宏
	8 関水産	雲仙市 小浜町	関 智之
	9 野中手延製麺	南島原市 南有馬町	野中 孝徳
	10 諏訪の池ビジターセンター	雲仙市 諏訪の池	大向 あぐり
	11 本多製麺	南島原市 西有家町	本多 正典
	12 寄手見世会、地王倶楽部	南島原市 有家町	山口 忠宗
	13 H&M コミュニケーションズ(株) 代表者	長崎市	原 常浩
	14 じゃらん長崎	長崎市	山田 華子
	15 七つの風、雲仙市市議会議員	雲仙市 小浜町	林田 哲幸
	16 島原半島ジオパーク推進連絡協議会事務局	島原市	隈部 友和
	17 島原市観光・ジオパークグループ	島原市	本多 亮博
	18 (社)島原青年会議所郷土愛醸成委員長 長崎新聞島原外港販売センター	島原市	本多 弘和
	19 南島原市企画振興部商工観光課	南島原市	田中 徹
	20 雲仙市観光物産まちづくり推進課	雲仙市	林田 真明
	21 七つの風事務局、雲仙市オリーブ協議会事務局	雲仙市 千々石町	堀川 二雄
	22 七つの風、自動車整備業	雲仙市 瑞穂町	野田 透
	23 農事組合法人 ながさき南部生産組合	南島原市	増田 雄士
	24 雲仙市政策企画課	雲仙市	林田 慎也
	25 JTBコミュニケーションズ九州 地域交流事業部 営業2課	長崎市(別府出身)	伊藤 知晃
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		

1 雲仙プラン100とは

雲仙プラン100は、雲仙天草国立公園雲仙地域（以下、雲仙地域）が、2034年に迎える国立公園指定100周年に向けて、国立公園としての雲仙地域のあり方を示した中長期の地域再生行動計画である。

検討にあたっては、専門家・行政機関・地域関係者等からなる雲仙プラン100策定委員会を設置するとともに、若手の有志からなるワーキンググループ等を組織し、それぞれの分野について活発に議論を行った。

なお、雲仙プラン100で示す行動計画の実施にあたっては、理念や将来ビジョンのもとに、定期的に進捗状況や成果の確認・評価、市場動向の把握を行いながら、概ね5年ごとに点検を行い、必要に応じた見直しを行うことを想定している。

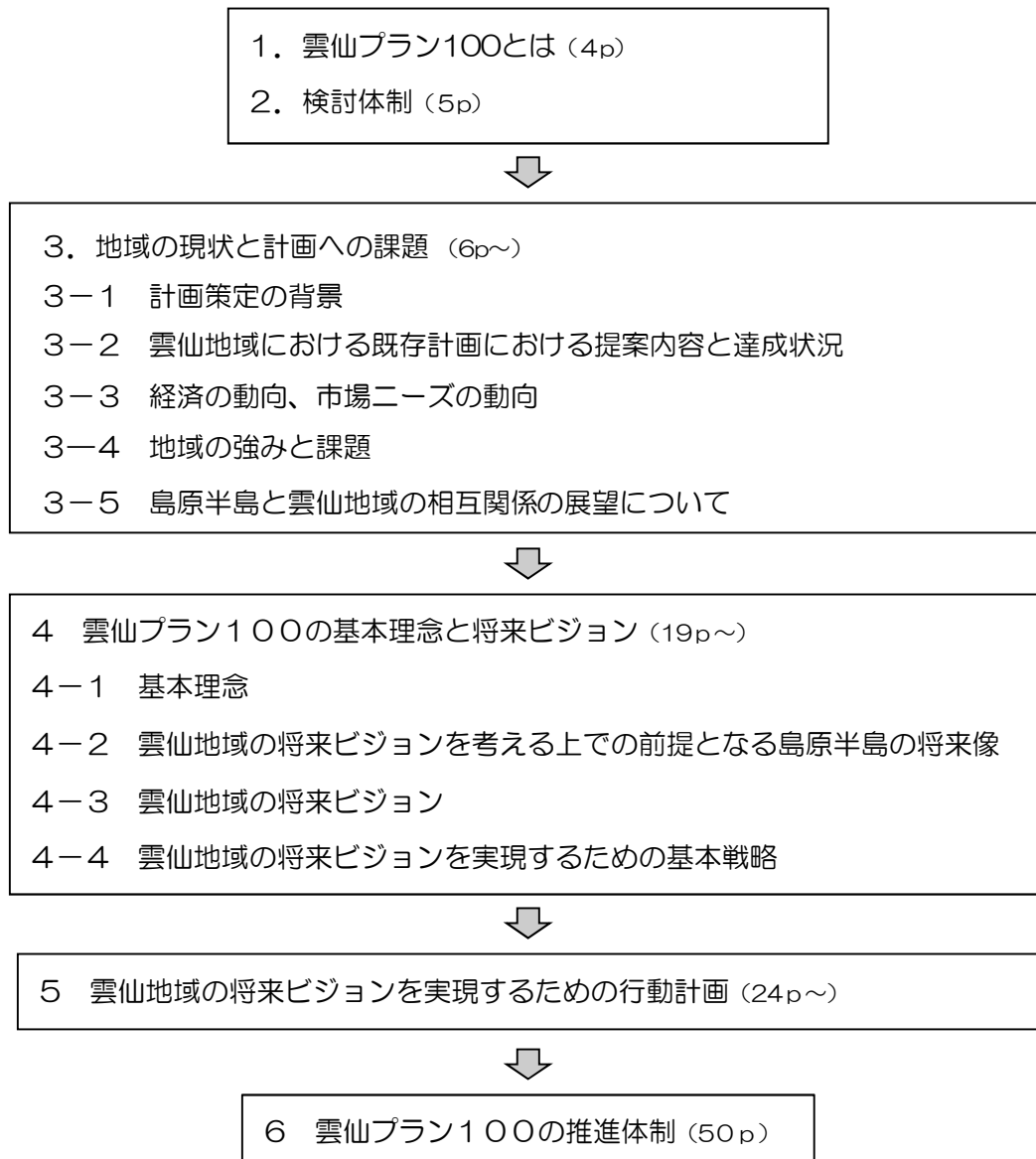
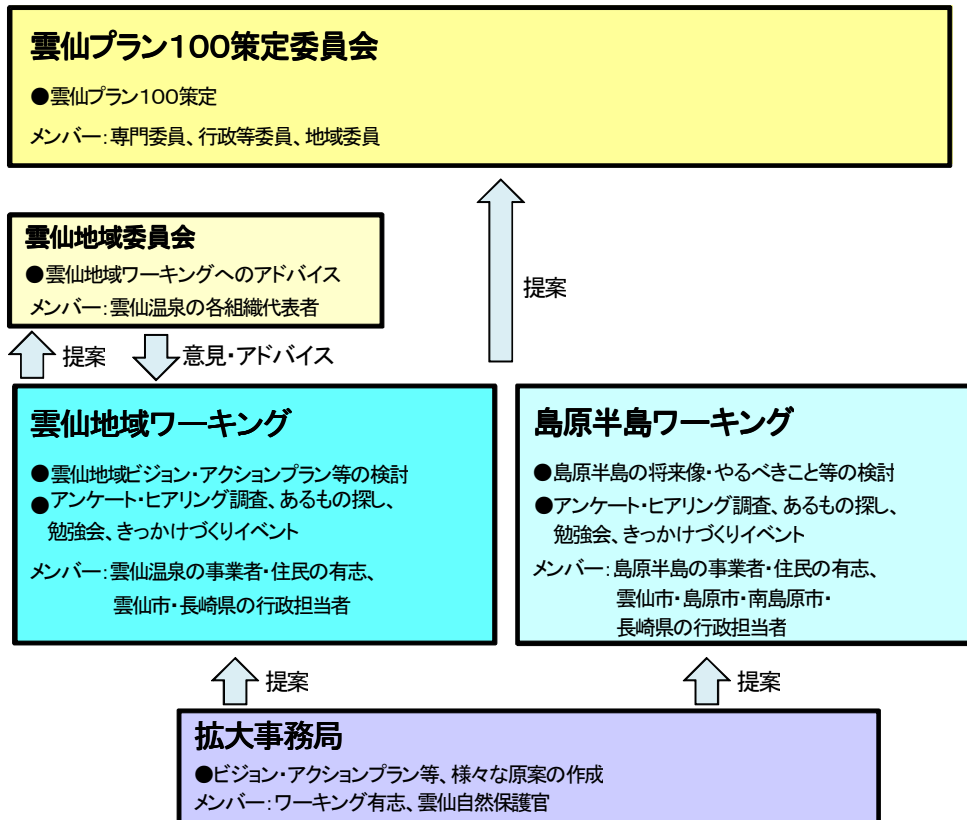


図 雲仙プラン100全体構成

2 検討体制

雲仙プラン100の策定にあたっては、専門家・行政機関・地域関係者等の参画のもと、下図のような検討体制により協議し、とりまとめた。



3 地域の現状と計画への課題

3-1 計画策定の背景

雲仙地域は、明治初期から戦前にかけて外国人の一大避暑地として賑わい、1934年には日本で最初の国立公園に指定された。指定後は、県や国により多くの利用施設が整備され、高度経済成長期には国内でも有数の温泉地として団体客を中心に賑わいをみせた。

しかし、雲仙温泉街を例にとると、1990年の雲仙普賢岳の大噴火によるダメージに加え、その後の団体旅行の減少や、個人旅行のニーズに対する対応の遅れなどから、さらなる観光客の減少、温泉街の賑わいの消失、地域経済の疲弊、街並み景観の悪化、人口の減少といった多くの問題を抱え続けている。

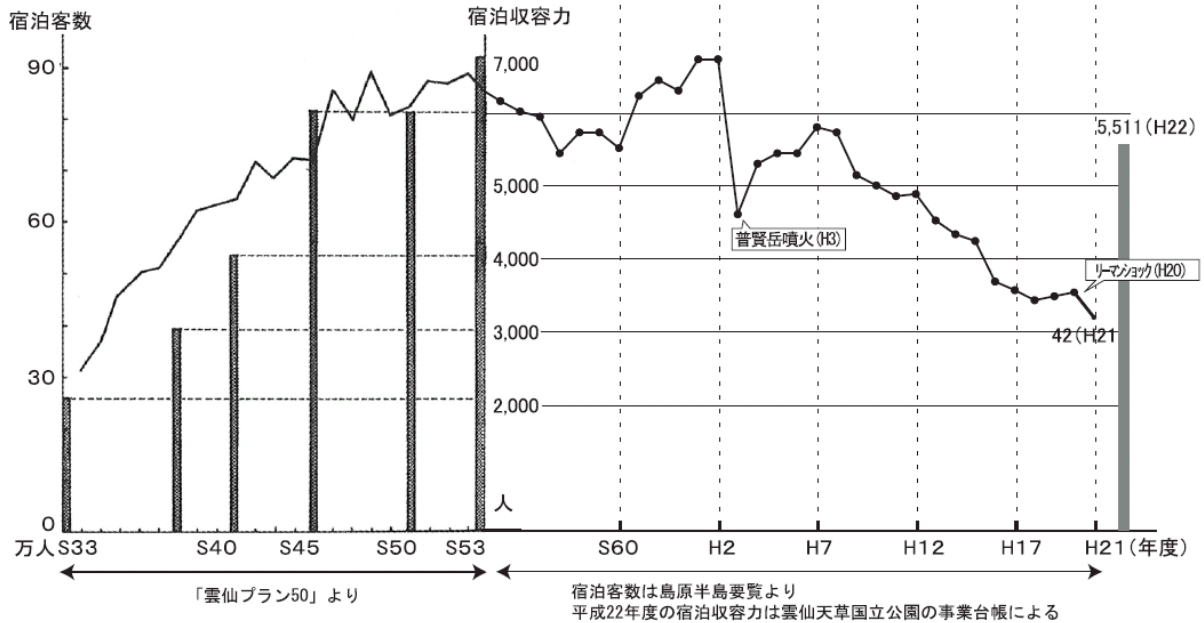


図 雲仙温泉の宿泊者数と宿泊収容力の推移

注) 折れ線が宿泊者数、棒グラフが施設の収容力数を表す。宿泊者数は激減しているが、施設収容力数はほとんど減少しておらず、稼働率が著しく低下している。

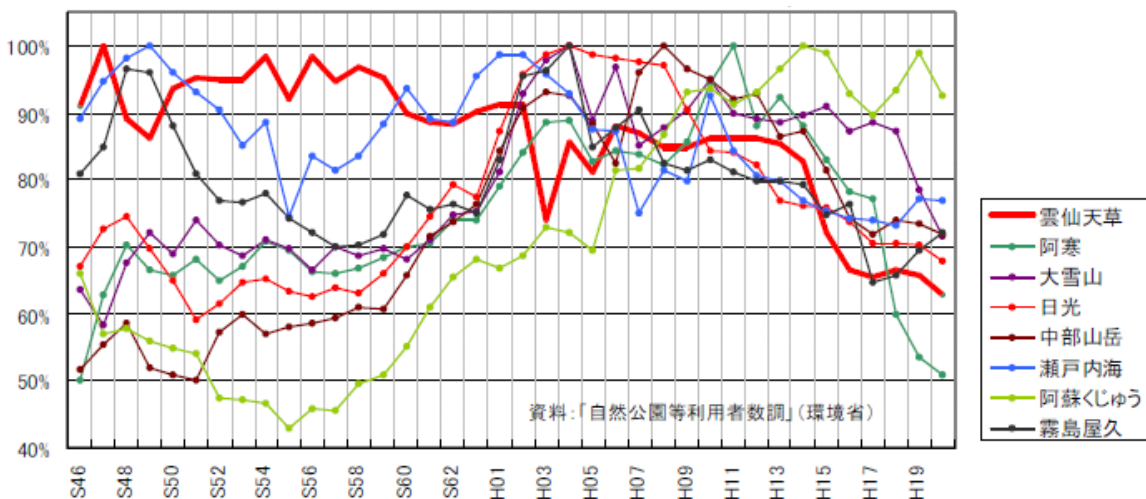


図 主要な国立公園の利用者数の推移 (過去最高年を100%とした値)

注) 他の主要国立公園(雲仙天草国立公園を含む8公園)の利用者数の推移と比較すると、大半の公園が昭和50年代中盤に一度落ち込んだ後にバブル景気前後の平成年代初頭に過去最高を記録、その後減少が続いているのに対し、雲仙天草国立公園は平成年代初頭に普賢岳噴火が重なったこともあり、昭和40年代から減少傾向が続いている。

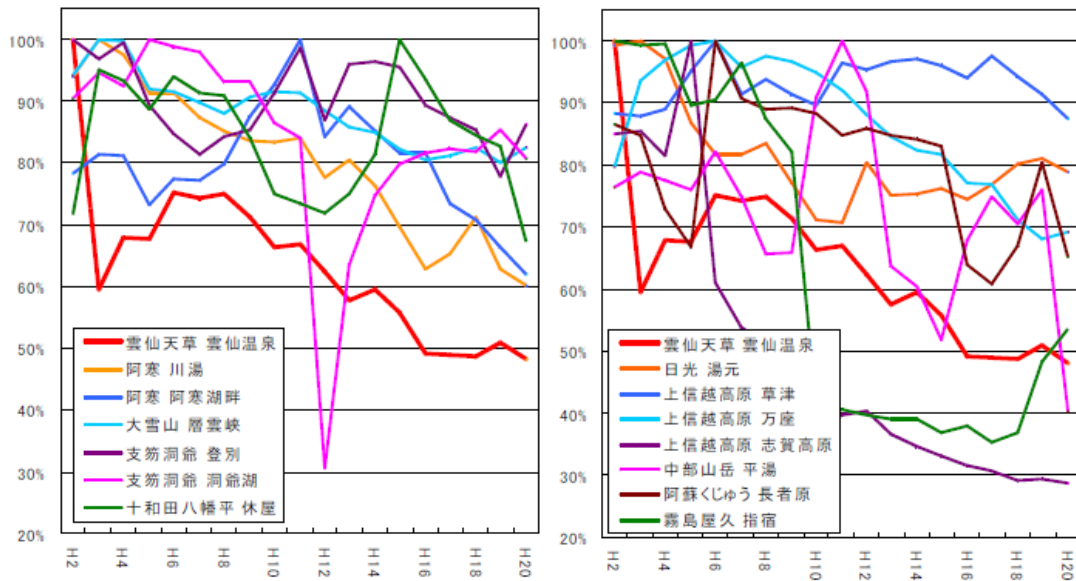


図 国立公園内主要集団施設地区の利用者数の推移（平成2年以降の過去最高年比）

注）温泉を主体とする全国各地の国立公園内集団施設地区の利用者数を比較すると、スキー客の減少が著しい「志賀高原」と一時のブームによる利用者急増後のリバウンド状態にある「平湯温泉」を除けば、「雲仙温泉」は全国でも最も利用者減少の大きい集団施設地区といえる。

	1990 年度	2000 年度	2010 年度
1	和倉（石川）	古牧・奥入瀬（青森）	草津（群馬）
2	雲仙（長崎）	登別（北海道）	登別（北海道）
3	指宿（鹿児島）	草津（群馬）	由布院（大分）
4	登別（北海道）	和倉（石川）	黒川（熊本）
5	道後（愛媛）	秋保（宮城）	指宿（鹿児島）
6	山代（石川）	道後（愛媛）	別府八湯（大分）
7	温海（山形）	由布院（大分）	下呂（岐阜）
8	玉造（島根）	伊香保（群馬）	道後（愛媛）
9	別府（大分）	山代（石川）	有馬（兵庫）
10	下呂（岐阜）	下呂（岐阜）	城崎（兵庫）
		12位 雲仙	14位 雲仙

表 人気の温泉ランキング（観光経済新聞社調べ）

POINT①
 ○全体にブランド想起が低い。そのため旅行先の候補として雲仙はなかなか挙がらない。
 ○来訪経験者においても雲仙はあまり記憶に残っていないという状況。通過点となっている。
 ○雲仙＝温泉というイメージが希薄になっている。
 ブランドイメージが希薄。記憶に残るような体験価値を提供できていない。

POINT②
 ○全体に噴火の印象が強烈に残存。20～30代は普賢岳災害により雲仙を初めて知った世代。
 未訪問者は、雲仙＝噴火の印象が強い。敬遠気味。⇒ブランドの再構築が必要
 来訪経験者は、雲仙＝さびれているという印象 ⇒イメージ・実体ともに再活性化が必要

図 雲仙の知名度（「雲仙ブランドプロジェクト（2005年）」でのインタビュー結果）

- 高度成長期、観光客の飛躍的増大にあわせ宿泊施設の増改築が進んだが、観光客数の減少や利用形態・ニーズの変化に対し、機動的な対応がしにくい設備の蓄積を抱えることになってしまった。
- また、この時期の宿泊施設の増改築により、飲食・土産部門を持つ総合的観光施設の機能を備えたことにより、窓越しに風景を見るという利用形態に変化した。またその頃、観光客の主役を占めた団体周遊客のタッチ&ゴー型の利用形態が主流を占め、滞在時間の短時間化が進んだ。結果、「街を歩く人が減り、地獄と仁田峠を走り抜けていく利用形態」が定着してしまった。
- そのことと相まって、街としての魅力づくりが遅れ、商店街の魅力を始め、多様で特色ある自然、歴史文化資源を上手に活かさないまま、悪循環に陥っている。
- 競合する観光地が多様な魅力を発信するなかで、利用者ニーズに合わせた雲仙の本来の強みの演出（マーケティングとブランディング）ができておらず、情報発信の数だけでなく、利用者並びに各種情報媒体への訴求力の高い内容の情報（戦略的情報発信）が不足し、情報発信力・情報の訴求力が低下してしまい、地域イメージが古いまま固定化してしまっている。

利用者ニーズへの対応の遅れに関する関係者の意見

(雲仙プラン50及び「平成21年度 雲仙天草国立公園雲仙地域再整備計画策定業務報告書」ほかに基づき整理)

また、島原半島全体でみても人口減少は顕著で、特に雲仙市、南島原市は県全体の減少率を大きく上回り、少子高齢化の進展による地場産業である一次産業の後継者不足や、地域経済の停滞が予想されることへの対策も求められている。

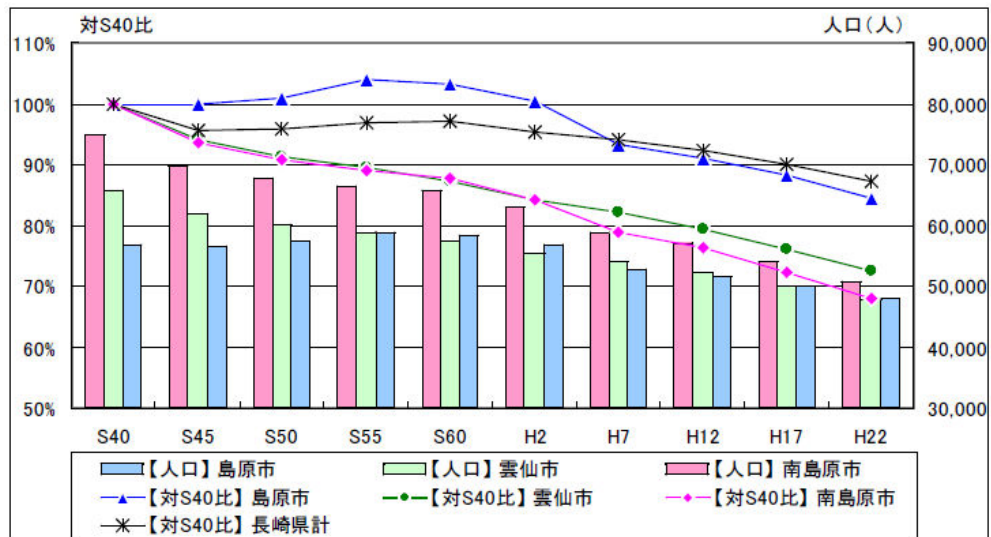


図 島原半島の人口推移

一方、2005～2006年にかけて平成の大合併が行われ、雲仙市、島原市、南島原市が誕生。2009年には日本初の世界ジオパークに認定されたのをはじめ、2010年には雲仙天草観光圏整備事業という広域滞在型観光圏づくりを目指した取り組みがはじまるなど、島原半島をとりまく新たな動きが活発化しつつある。

そのようななか、雲仙地域は2009年に75周年を迎え、国立公園指定50周年に50年後を見据えて地域住民とともに創り上げた「雲仙プラン50」から約25年、雲仙地域において集中的に利用施設の再整備を行った緑のダイヤモンド計画から約10年が経過した。その間に、世界経済や国民の価値観、観光客のニーズは大きく変化してきており、雲仙地域としても、そうした変化や現状を踏まえた地域戦略の見直しが迫られており、多くの問題を前に一刻の猶予もない状況となっている。

こうした現状と危機感を共有し、その上で、力強く新たなスタートをきるため、ここに、雲仙地域が2034年に迎える国立公園指定100周年に向け、雲仙地域の再生と国立公園の再生のための将来ビジョンとそのための具体的行動計画を示した中長期の地域再生行動計画「雲仙プラン100」を策定する。

3-2 雲仙地域における既存計画における提案内容と達成状況

1983年、雲仙の国立公園50周年を迎えるに当たって、50年後を見据えて策定された「雲仙プラン50」をはじめ、「雲仙リ・ボーン計画（1991年）」、「雲仙商店街活性化基本構想（1995年）」、がまだず計画（1997年）と連動して策定された「雲仙ルネサンス計画（1997年）」及び「緑のダイヤモンド計画（1998年）」、「雲仙温泉集団施設地区計画（2001年）」、また雲仙温泉街の魅力アップのために民間が中心となって取り組んだ「雲仙ブランドプロジェクト（2005年）」等、雲仙地域を対象としてこれまで多くの計画・提案がなされてきた。そのいずれの計画においても、豊かな自然や歴史等の雲仙独自の地域資源を活用し、雲仙温泉街での滞在時間を延長させることが、雲仙地域の活性化につながるという方向性が示されている。また、そのためには、地域資源の掘り起こしと積極的な活用・発信、地域と国立公園の連携や利用拠点同士のネットワーク化等によって雲仙観光の魅力が多様なものにすること、歩いて楽しい雲仙温泉街づくりを行う必要性等が示唆されている。しかし、こうした計画・提案は一部が実現しているものの、多くは実現されず、同様の提案が繰り返されるばかりで、未だ多くの地域資源が活用されないまま放置されているのが実状である。

この理由としては、計画の立案・検討が行政主導で行われ、実施段階までに地域の思いが醸成されず、結果的に行政頼みになり予算が付かないと進まないという状況に陥っていたことや、地域側のステークホルダーが観光業者や旅館ホテルに偏り、住民を含め地域全体で考え実施する意識や体制が構築できなかったこと等、地域の一人一人が自らのこととして考え、知恵を出し合い、汗を流し行動するという強い気持ちが欠如し、地域主体で計画を実施する意識と体制が十分構築できなかったことが原因と考えられる。

表 雲仙地域における既存計画

年次	計画等名称・策定主体	主なテーマ・提案内容等	達成状況
1950年代	映画「君の名は」の舞台ともなり、九州観光の中心となる		
1960年代	旅館・ホテル増改築急増		
1973	石油ショックにより観光客は頭打ち、その後観光客は横ばいに		
1981.3	まちづくりのための雲仙プラン50（長崎県）	滞在型需要への対応、温泉地としての魅力の拡大、ニューウンゼンのイメージづくり	商店街の街並み整備は実施中。遊歩道整備なども未実施の計画も多く、歩くネットワークづくり、タウンスケープづくりは不十分。主体形成も不十分。
1983.3	雲仙プラン50（雲仙プラン策定委員会）	・絹笠山、白雲の池など周辺部整備 ・引湯管の整理	
1983.3	リフレッシュ・雲仙プラン（雲仙旅館ホテル協同組合）	・中央広場再開発 ・若手の団結・若手による持続的取組、地元経営者による主体的実行機関の設置	
1990	普賢岳の噴火が始まる		
1991.7	雲仙リ・ボーン計画（株式会社電通）	国際保養地としての歴史的・文化的観光資産の活用と充実 ・音楽祭などソフト整備 ・街並み・景観統一、共同浴場、観光牧場等のハード整備	取り組みは行われているが、未実施のものも多く、達成は不十分。
1992	バブル崩壊		
1995.3	雲仙商店街活性化基本構想（小浜町商工会）	自然、歴史を強調する観光資源の整備、楽しく歩ける仕組みづくり ・白雲の池～絹笠山オフシーズン対策等 ・雲仙児童公園再整備 ・街の接合点（4つの交差点）の演出 ・自動車動線検討（国道迂回ルートなど）	湯の里地区の活用や古湯の通りの整備は、ファサード整備にて実施中。児童公園や国道迂回ルート検討など未実施のものも多く、達成は不十分。
1996.3	集団施設地区等施設管理運営計画（雲仙天草国立公園・雲仙地域）（長崎県）	緑のダイヤモンド計画を目指し提案 ・仁田峠、池の原、宝原等のミヤマキリシマ群落の修復 ・普賢岳周辺自然体験フィールドの整備 ・利用拠点としての温泉街の整備	火山を中心とする自然体験フィールドとして登山道整備予定。緑のダイヤモンド事業等として実現したものも多いが、地獄引湯管整理など不十分なものもある。
1996	噴火活動沈静化、復興事業が本格化		
1997.3	島原地域再生行動計画「がまだず計画」（島原地域再生行動計画策定委員会、長崎県、島原市、南高来郡阿村会）		

年次	計画等名称・策定主体	主なテーマ・提案内容等	達成状況
	雲仙総合整備計画 雲仙ルネサ ンス計画（長崎県）	噴火活動からの国立公園雲仙の再生 ・噴火災害からの復興 ・体験型利用への転換（雲仙トレイルなど） ・地域と連動した国立公園整備 ・景観の質や施設水準の向上	施設整備は緑のダイヤモンド事業等として実現したものが多く。 地域参加型事業（「雲仙ルール」制定や「島原半島資源の発掘・活用」など）は達成不十分。
1998. 3	雲仙天草国立公園雲仙地域自然 体験フィールドの検討のための 環境調査等（整備計画編） （財団法人国立公園協会）	緑のダイヤモンド計画の実施 ・自然環境保全修復 ・自然体験フィールド整備 ・利用拠点整備 ・利用誘導拠点整備 ・国立公園と地域や利用拠点と地域、利用拠点 同士のネットワーク化	雲仙地域全体を核心地域とした総合整備 が進展。 植生復元や公園入口部修景整備など一部 は不十分。 利用拠点は整備されたものの、国立公園 と地域や拠点と地域、また拠点同士のネ ットワーク化までには至らなかった。
2001. 5	雲仙温泉集団施設地区計画策定 （長崎県）	「滞在型観光」推進のための街づくり ・ゾーン別施設配置 ・利用空間整備 ・標識・サイン類の体系的整備	一部整備済だが、魅力創出として不十分 なものが多い。 けやき広場、児童公園、旧八万地獄観察 装置などは未実施。
2005. 3	「雲仙ブランドプロジェクト」 ブランド（株式会社電通）	21世紀型国際温泉リゾートを目指す （ソフト中心の提案） ・コアバリューの訴求・活用 ・回遊性の促進、街区の整備 ・産品・グルメ開発 ・島原半島との連携	一部の店舗改装や商品化、料理開発は進 んだが、未実施や不十分なものが多い。
2007. 3	雲仙古湯地区再生調査 （雲仙商店協同組合）	雲仙商店街魅力アップ、古湯地区再生 ・湯川移設整備 ・古湯商店街ファサード整備 ・パークホテル跡の活用計画 ・国道等交通環境改善	湯川移設、古湯商店街ファサード整備は 進行中。 パークホテル改修・跡地利用及び国道57 号線形変更や市道のバイパス延伸は未実 施。

また、雲仙地域に関わる計画として、普賢岳噴火後の復興計画として島原半島全域を対象に将来ビジョンを描き行動計画を示した「がまだす計画（1997年）」、島原半島ジオパーク推進連絡協議会の策定した火山と共生する持続可能な地域社会の活性化を目指す「島原半島ジオパーク基本計画（2010年12月）」や、より広域的な観光圏を形成し、転地滞在・交流型の新しい観光圏整備を目指す「雲仙天草観光圏整備計画（2009年2月）」、並びに島原市、雲仙市、南島原市それぞれの総合計画等がある。これらの計画においても、島原半島内外の連携の必要性や、地域資源を活用したソフトの充実、地域の自然・文化の見直しとその保全・活用、地域住民が担い手の主役といった方向性が共通している。

表 関連する島原半島及び3市の計画における「ビジョン」、「重点施策」等

	ビジョン、戦略、重点施策等	計画期間
島原半島を舞台にした計画	<p>島原半島ジオパークは次の基本理念の下、未来に向かって火山の恵みと豊かな自然を保全し活用を進めることにより、日本ジオパークネットワークの先駆的でモデル的な存在としてジオパークの魅力を高めることができるよう、島原半島独自の火山と共生する持続可能な地域社会の実現を目指します。</p> <p>【基本理念】 「火山との共生」「大地の恵みの保全と活用」「自慢できるふるさとづくり」「日本ジオパークの中核的存在」「持続可能な運営」</p> <p>【基本方針・戦略】 1 保護・保全 (1) ジオサイトの管理、利用、保全方針の明確化 (2) 地域住民による保全活動の促進の実現（ジオサイトキーパー・保全サポーターの育成等） (3) ジオサイトの保全整備の促進と新たなジオパーク資源の掘り起こし 2 調査研究・教育 (1) ジオサイト等の調査・研究への支援及びジオパークを介しての大学や研究者と地域との連携 (2) 幅広い対象者に向けた研修の実施 (3) インタープリターとしてのジオガイドの養成 3 観光・地域振興 (1) ジオツーリズムの拡大と観光客の増加（着地型旅行の開発） (2) 島原半島の農業、漁業、商工業、観光業を融合させる6次産業化の促進 (3) 国際化を視野に入れ、国内外へ情報発信の強化</p>	2010 ～ 2020 年度
	<p>【基本戦略】 新しい観光の 카테고리 “ジオミュージアム観光” を基本コンセプトとして、雲仙天草の自然の恵みと生活文化を五感で体感してもらうための、上質で多様性に満ちた観光コンテンツを提供することによって、国際的にも競争力のある転地滞在・交流型の観光圏を整備する。</p> <p>【基本コンセプト】 あらゆる自然の恵みがここにある ここにしかない歴史と風土がある 「五感と自分に響く旅 雲仙天草」</p> <p>【観光圏整備計画の目標】 官民の関係機関が連携して「雲仙天草観光圏」を一体運営することによって、圏内の観光資源の有機的な掘り起こしとそのブラッシュアップをはかり、観光客の連泊・転泊を促し、転地滞在・交流型の新しい観光圏を整備する。</p> <p>【観光圏整備計画】 各市の行政、民間それぞれのレベルの中で計画された事業の中から、本計画の趣旨に合致するものを絞り込んだ。それぞれに連携を取りながら、可能な限り相乗効果を生むような推進を行う。 ・着地型商品システム構築事業 ・地域人材育成事業 ・ノンストップバス運行事業 ・ジオ関係多言語看板整備 ・観光案内窓口業務強化事業 等</p>	2009 ～ 2013 年度
島原半島内3市の計画	<p>【将来像】 有明海にひらく湧水あふれる火山と歴史の田園都市</p> <p>【都市ビジョン】 島原半島の中心都市づくり 交通・情報ネットワークづくり（地域外との交流基盤整備） 特色ある産業づくり（農漁商観の融合、地域ブランドの確立） 安全・安心な暮らしづくり（市民参加による自然環境の保全） 「人づくり」重視の都市づくり</p> <p>【都市ビジョンを支える行動方針】 地域力を結集した市政運営（住民主体のまちづくりの推進） 島原半島全体の活性化と島原市の発展（周辺自治体との連携）</p> <p>【重点プロジェクト】 「島原ブランド」づくりプロジェクト 地域の顔づくりプロジェクト 体感・感動のまちづくりプロジェクト（島原半島ジオパークの推進、体験型観光事業の推進、火山観光の推進、観光圏と観光ルートの設定等）</p>	2010 ～ 2019 年度

		ビジョン、戦略、重点施策等	計画期間
	雲仙市 総合計画	<p>【将来像】 豊かな大地・輝く海と ふれあう人々で築く たくましい郷土</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥沃な大地、宝の海は雲仙のシンボルであり人々の誇り ・地域を越え、世代を超えた人々の交流は、雲仙市発展の原動力 ・雲仙の地域力、人材力を集結し、時代を見据えた郷土づくり <p>【将来像実現のテーマ】 雲仙・山麓「食」「遊」「快」のくにづくり</p> <p>【実現のための基本方針（関連項目を抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○快適で住みよい暮らしづくり（自然と共存する地域づくり等） ○力強い産業と仕事づくり（固有の美しい風景を雲仙ブランドに活用等） ○新しい観光・交流による活力づくり（地域資源を活かした観光振興、地域間交流の推進等） ○明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり（歴史文化、生活習慣・食の継承等） <p>【戦略プロジェクト（関連項目を抜粋）】</p> <p>農業都市宣言：地産地消、雲仙ブランドの確立、新たな関連産業の創出等 国際観光都市「雲仙」：温泉と健康・食の融合、滞在型観光推進、農漁業と連携した観光、地域資源の再発掘、国際観光への対応等</p>	2007 ～ 2014 年度
	南島原市 総合計画	<p>【まちづくりの将来像】 太陽の恵みと世界遺産のまちとして、かけがえのない地域資源を大切に守り育てながら、「生活重視の安心・安全のまち」「自然・歴史・食の産地を地域ブランドにひとときを輝くまち」「ずっと働ける元気な産業のまち」</p> <p>【まちづくりの方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森などの自然環境に対する意識の高揚を図るため環境学習などを推進。 ・各地域に残された郷土文化を市民の手で守り育て、内外に発信。 ・自然や歴史、農水産業などを活かした南島原版の体験型観光を振興。 	2008 ～ 2017 年度

これらを踏まえ、本プランの策定にあたっては、今までの計画が実現できなかった背景や理由を鑑みて、旅館ホテルだけでなく地域全体が主導し、一人一人が自ら考え知恵を出し合い行動する意識を醸成することに重きを置いた。また、プランを確実に実現していくため、具体的行動を推進できるよう実施主体と達成目標を明らかにした行動計画を作成し、それを推進するための体制づくりを進めた。

さらに、本プランについては、地域資源の掘り起こし、豊かな自然や歴史・文化等の地域資源の保全・活用、地域と国立公園の連携や利用拠点同士のネットワーク化、観光の魅力の多様化、歩いて楽しい雲仙温泉街づくり、雲仙温泉街での滞在時間の延長、そして、島原半島内外の連携の必要性、地域資源を活用したソフトの充実、地域住民が担い手の主役など、既存計画のコンセプトや提案、それらの進捗状況や成果にも留意しつつ策定作業を進めた。

3-3 経済の動向、市場ニーズの動向

今後、23年後の雲仙地域を考える前提として、経済動向や市場ニーズの予測を整理する。

- ・ 経済は低成長期が続く一方、社会の成熟化が一層進み、国民は、心の豊かさや生きがいを重視するようになり、価値観もいま以上に多様化し、23年後もあまり変わらないと予想される。
- ・ 東アジアとの連携が強まり、交流の増加が見込まれる。
- ・ 災害や環境問題への関心の高まりにより、社会全体が「安全・安心」を求める意識が高まっていくと考えられる。
- ・ 「一人一人の価値に基づく観光」の時代が到来し、「ほんもの」や「ふれあい」がより一層求められるようになる。
- ・ 外国人(特にアジア)についても、日本の四季や伝統文化に関心が高まり、成熟した旅行者が増えることが見込まれる。

国全体では本格的な人口減少社会が到来し、低成長ながら個人の価値観、ゆとりや安らぎ、健康維持、心の豊かさや生きがい、生活の質の向上を重視する成熟化社会に進展することが予想される。一方、東アジアに目を向けると、グローバル化と経済成長にともない、エネルギー需要の急速な伸びが予想される等、環境問題、資源・エネルギー問題、人口の高齢化といった、東アジア地域共通の問題が顕在化する。また、東アジア規模での連携強化が進み、人的往来が活発化することが見込まれる。加えて、気候変動の進展による異常気象と大規模な災害の増加、世界の人口・経済の拡大による資源・エネルギー不足と生態系の劣化等の不安要素が拡大することが予想される。

一方で3.11 東日本大震災(2011年)の体験は、自然の予測不可能性を改めて思い起こさせ、自然とどう向き合っていくかが国民共通の関心事となっている。それとともに、気候変動の防止、循環型社会の構築、自然環境の保全・再生等の環境問題に対し、「安全・安心」を求める形で、意識が高まっていくと考えられる。

観光面でも、今以上に、「一人一人の価値に基づく観光」の時代が到来し、個人個人が自分の志向にあった行き先を選択するようになると予想される。低成長時代の個別志向の元では、国内の観光客数の量的な伸びは期待しにくい。しかし、一方で、地域らしさに裏打ちされた「ほんもの」の観光や、他産業と連動した観光、人や自然とのふれあい等の体験的要素を取り入れた新しいタイプの観光が定着し、地産地消やユニバーサルなおもてなし等の安心できるサービスが、大きなニーズに発展していくことが予想される。海外からの観光客については、中国・アジア地域を中心に、大幅な増大が見込まれる。海外からの観光客にも、温泉や四季の風景等の自然、伝統文化への関心が高まり、リピーターとして個人旅行を楽しむスタイルが定着し、国内観光客と同様に、自分の志向にあった旅行先を訪ねる傾向が強まると考えられる。

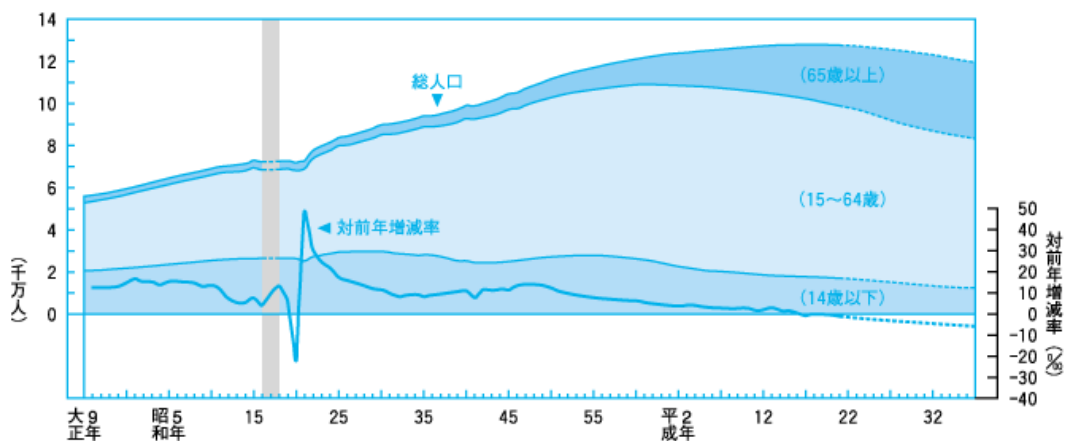


図 日本の総人口の推移 (日本の統計 2011: 総務省統計局)

注) 昭和16~18年の年齢別の推計は行われていない。

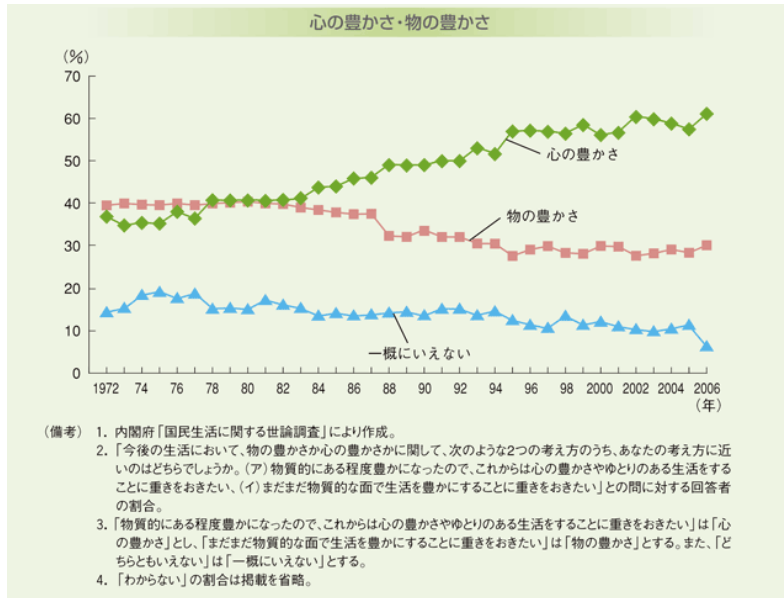


図 心の豊かさ・物の豊かさ (平成 19 年版国民生活白書)

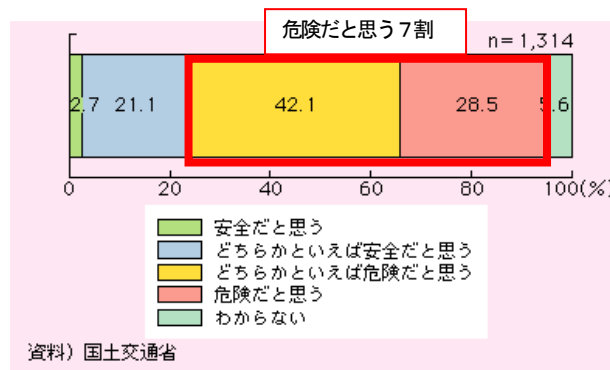


図 今の日本における自然災害、事故及びテロに対する安全性 (平成 17 年度国土交通白書)

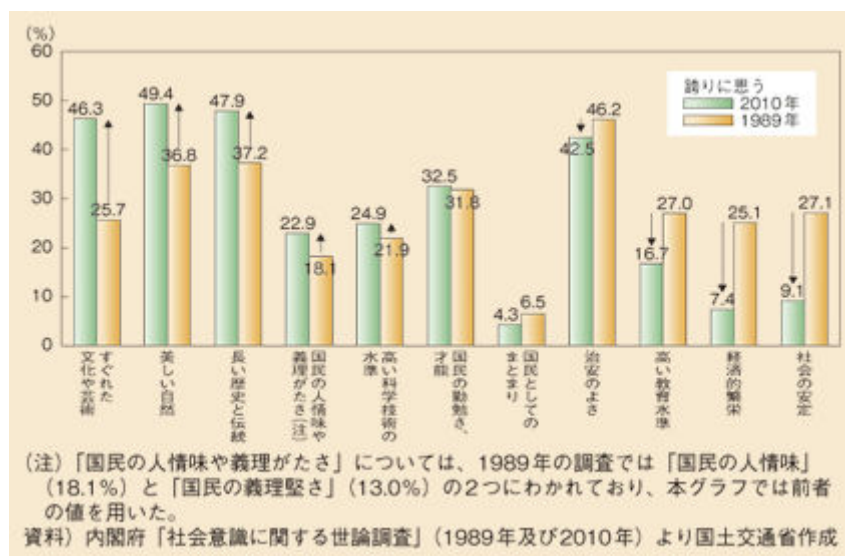


図 日本について誇りに思うものの変化 (平成 21 年度国土交通白書)

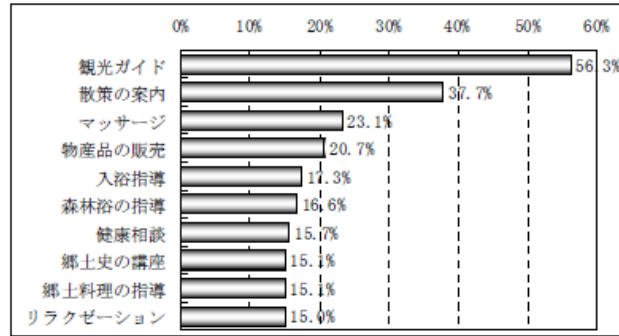


図 温泉地に常設して欲しい施設やサービス（上位10項目）

資料：第45回「旅と温泉展」アンケート調査結果（（社）日本温泉協会、平成17年3月）

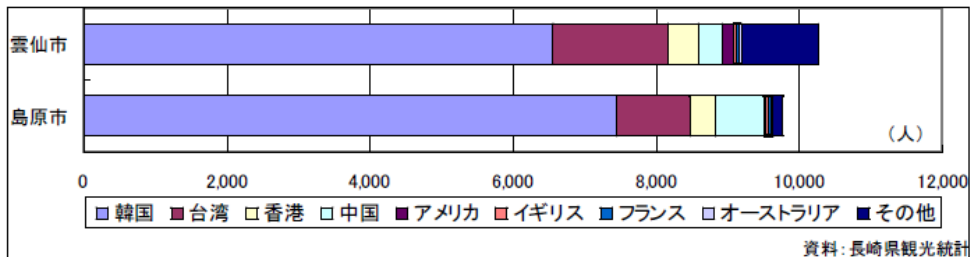


図 外国人観光客数（2008年長崎県観光統計）

注）南島原市はデータなし

表 居住地別に見た訪日旅行動機（観光客）

全体	韓国	台湾
伝統文化/歴史的施設 36.6%	温泉/リラックス 44.5%	温泉/リラックス 46.3%
温泉/リラックス 33.8%	ショッピング 30.0%	自然景観 37.0%
ショッピング 32.1%	伝統文化/歴史的施設 28.6%	ショッピング 36.4%
自然景観 28.6%	都市の魅力、現代性 25.5%	伝統文化/歴史的施設 30.1%
日本の食事 24.9%	日本人とその生活 23.3%	日本の食事 28.6%

中国	香港	米国
自然景観 35.6%	ショッピング 61.4%	伝統文化/歴史的施設 64.7%
温泉/リラックス 33.1%	温泉/リラックス 43.5%	日本人とその生活 43.6%
都市の魅力、現代性 30.6%	自然景観 37.7%	自然景観 24.4%
ショッピング 29.0%	日本の食事 37.2%	日本の食事 23.5%
伝統文化/歴史的施設 27.1%	伝統文化/歴史的施設 18.4%	ショッピング 19.2%

資料：国際観光白書2007（（独）国際観光振興機構）

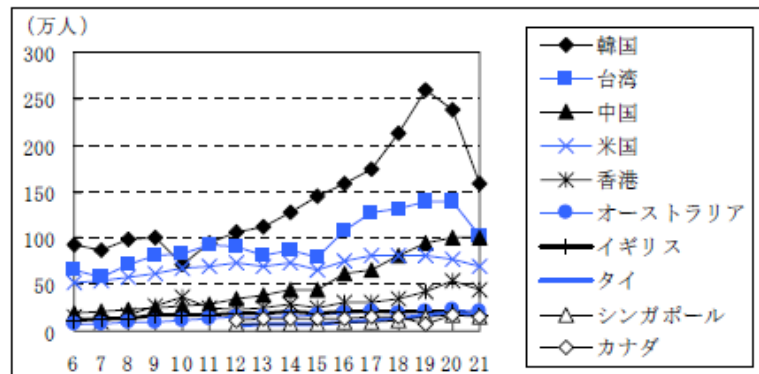


図 国別訪日外国人旅行客数の推移（上位10カ国）

資料：観光白書平成7年版～平成12年版、平成22年版(国土交通省)

3-4 地域の強みと課題

本プランの検討に当たり、島原半島や雲仙地域がどのような地域であるかを認識し、共有しておく必要があるため、島原半島及び雲仙地域の強みと課題を明らかにした。

	強み	課題
島原半島	<ul style="list-style-type: none"> 山から海までの垂直分布の中に、多様な地域資源がコンパクトにまとまった“陸続きの島” 九州の中でも、特に自然と人の暮らしが育んだ魅力（酪農林漁業、地場産品等）に溢れる地域であり、今後の利用者ニーズへの活用可能性が高い 畏敬の念をもってお山（普賢さん）に向きあい、その恵に感謝する心が受け継がれてきた地域 自然や火山との共生を体感する体験型観光、自然エネルギーの活用等の自然の活用可能性が高い地域 「国立公園第一号」である雲仙地域を有する 「世界ジオパーク」認定により「火山由来の地形・地質」や「人と火山の共生スタイル」が世界的価値となった 九州の真ん中にあり、周辺に、長崎、佐世保、諫早、天草、阿蘇など、タイプの異なる観光地を有し、広域観光圏を形成しやすい地域 市町村合併、ジオパーク、観光圏、島原半島観光連盟の取り組み等により地域を包括する広域的な組織が生まれ、連携が模索されはじめている <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 若者の流出、活躍の場の不足 地元の人の島原半島の良さに対する認識が不足し、地域資源を活かしきれていない 避暑地として島原半島が広く利用されてきた特性や、「日本最初の国立公園」に指定された際の地域の結束力が活かされていない 地域の誇りである国立公園ならではの自然とふれあえる機会を活かしていない 島原半島の人たち同士の交流、相互理解が希薄であり、島原半島としての一体感の欠如 観光と地場産業の連携不足 島原半島外の観光地（長崎、熊本、阿蘇、湯布院、別府、平戸、佐世保、天草等）との交流、連携不足 <p style="text-align: right;">等</p>
雲仙地域	<ul style="list-style-type: none"> 日本八景、日本初の国立公園、日本初のリゾート地としての歴史 日本初の国立公園であり、国立公園を誇りに思い、活用していきたい意識が強い 関係行政機関等の協力のもとに自然や景観が保全され、また、活用のための整備が進み、豊かな自然とふれあえる機能が充実している 普賢岳を中心とした火山・自然資源（山、地獄、温泉）を気軽に楽しめる 四季がはっきりし、九州の中でも涼しい山地型気候（涼しい夏、九州一の紅葉、雪・霧氷の冬） 雲の上の空気感、静寂さ等の異空間でクリーンなイメージ 伝統と行き届いたサービスによる、安心して泊まれる旅館ホテルが充実 <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊客、滞在時間の減少 観光地としての気軽さ、親しみやすさの不足や市場ニーズへの対応の遅れ 商店・食・文化の魅力不足等、温泉街の街歩きを楽しむ要素の不足 戦略的情報発信、戦略的ブランディングの不足 気概、行動力、支え合う力不足 住民を含め地域全体で考え、地域主体で計画を実施する意識や体制が構築できていない 地域一人一人が自らのこととして考え、知恵を出し合い、汗を流し行動する強い気持ちの欠如 雲仙の自然や島原半島の暮らしの魅力等豊富な地域資源を活かしていない 島原半島地域との連携・一体感不足 全国の観光地や温泉地に埋没、国立公園としての知名度や存在感の低下 国立公園ならではの自然やつながりを活かし切れておらず、地域の雇用や産業との結びつきが希薄。また、そのことが、国立公園そのものの価値や魅力、訴求力の低下に拍車をかける悪循環に陥っている <p style="text-align: right;">等</p>

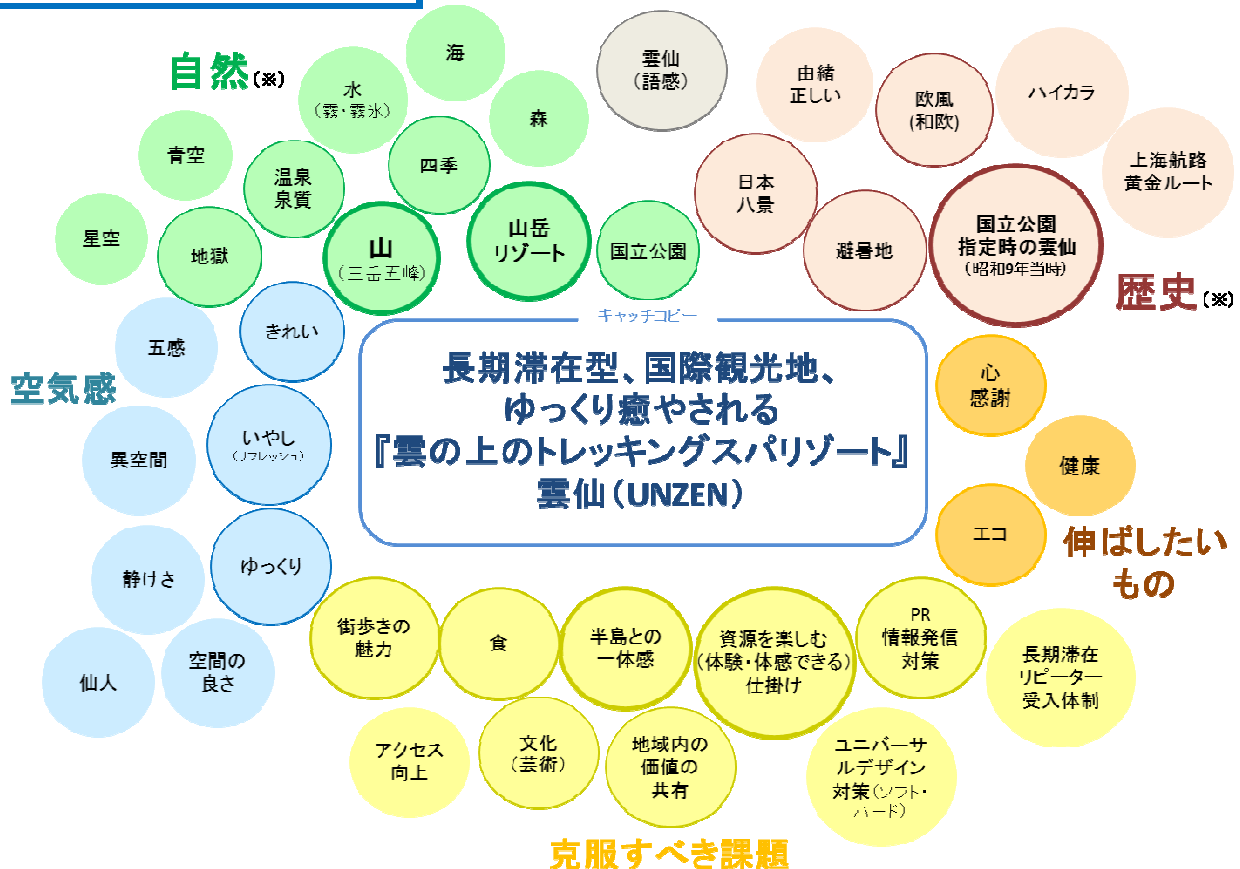
特に、雲仙温泉及びその周辺地域の強みと課題を把握するにあたり、関係する資源をその種別や場所及び時代・歴史との関わりによってカテゴリー区分した上で、地域ならではの資源を抽出する作業を行った。

またこれを基にブラッシュアップすべき個別資源を設定・抽出した上で、克服すべき課題も同時に整理し、目指すべき将来像を検討した。そのプロセスを次に示す。

雲仙温泉及び周辺の一押し資源整理一覧 → フラッシュアップすべき個別資源が見えてくる

資源カテゴリー	自然				街並・施設	その他 その他
	山(トレッキング、散策資源)	地獄	温泉	街		
歴史	今も昔(少なくとも江戸期くらいから)も、これからは変わらない資源	冷涼な気候 紅葉・ミヤマキリシマ・シロコウダンツツジ・ヤマボウシや渡り鳥など季節の動植物 霧、花ぼうろなどの自然現象	硫黄の匂い 湯けむり 地獄 各地獄の名前 地獄の移動	日本でも有数の泉質 (硫黄泉、メタケイ酸) 共同浴場	地獄のすぐそばという立地 雲仙温泉街=山の上の孤けした集落 温泉神社と清明寺(分祀前からの歴史を考慮)	星空
	今後(現在整備中)	新規登山ルート			湯川整備	
	現代①(噴火以降) (1990~2011)	ジオパーク さるふぁガイド 田代原トレイルセンター 平成新山 普賢岳噴火	さるふぁガイド エコタツ	足湯 指湯	おもちゃ博物館 ファサード整備 ロードロ美術館 森の美術館など文化施設 お山の情報館探訪の池ジグザクセンター スノハウス	食(雲仙シネネード、雲仙内しー、ピロケ、他) イベント(花祭り、あかりの花ぼうろ、他)
	現代② (1941~1989)	ロープウェイ 宝原園地 諏訪の池国民休暇村 仁田峠自動車道 九州自然道など散策道 登山道整備	遊歩道 キリシタン碑 燗付ナ	立ち寄り湯 各旅館、ホテルの温泉施設 共同浴場	環境公園ビクターセンター カトリック教会 燗付ナによる暖房 馬車 旅館ホテルの大型化(総合的観光施設化) 国守公園指定による規制	日本人客最盛期90万泊(1876) 食(温泉玉子、メダネ菓子、他) イベント(はだしで遊ぼう、他) 映画ロケ(『君の名は』他) 著名人の来雲仙 山出による旅館ホテルの稼収 日本軍による旅館ホテルの稼収
	避暑地時代 (1869~1941くらい)	国立公園指定による保護 サンセットビル(組立山) ロッカービル(高岩山) 外国人の登山客 一切経の滝プール 口雲の池 牧羊 登山道整備 ホテルから馬で各場所へ出向く チェア籠	国立公園指定による保護	新湯の開発 小地獄の開発 共同浴場 洋人風呂と、という一人のみの入浴する浴槽で外国人客の獲得	国立公園指定による規制 洋式ホテル 和風、和洋折衷の木造建築の旅館ホテル ゴルフ場 テニスコート 娯楽場 乗馬クラブ 国道	雲仙焼 食(湯せんべい、らわ中、凍り豆腐、他) 外国人泊数最大時 年間約3万5千泊(1927と1943) 国立公園指定(1934) 日本八景指定(1927) 日本初の景観公園指定(1911) 著名人の来雲仙 欧米人避暑地(上海疎開) ロシア人避暑地(1902年大恐慌と露政権安定まで、日露戦争時を除き、ロシア人多い)
	キリスト教・島原の乱時代と江戸時代 (1575~1869くらい)	外国人入山の禁止 山留役による温泉山の自然保護 島原大変 金比羅山(コンピサン)	お糸地獄 殉教(地獄責め) 小地獄の噴出	外国人入山(入浴)の禁止 延暦湯=古湯(湯治場) 湯守加藤氏 湯小屋	湯治場の小規模な村落 湯治宿	温泉四面宮に島原半島全域から参拝者
	修験道時代 (701~1575くらい)	稚児落しへの滝 大黒天 一切経の滝 行基洞 普賢岳(行者道)	清明寺の境内地 僧坊による地獄巡り(各地獄の名前)	湯治場?	大乗院(清明寺)の糞糞 真言密教の修験道場 清明寺行基開山(温泉山=うんぜんざん)	真言宗の三大寺のひとつ 女人禁制 白雲の乱 肥前国風土記(高来山)
	古代 (~700)	普賢岳の形成(約7000年前)	地獄の移動 (旧八万→新湯)		別所の住居跡(約6000年前)	
	有史前	断層(九千部兵、岩妻岳) 崩壊カルデラの外輪山(妙見岳、回見岳)	地獄の移動 (原八沼→旧八万)			

「雲仙の目指すところ」



3-5 島原半島と雲仙地域の相互関係の展望について

3-1～3-4を踏まえて、これからの島原半島と雲仙地域の相互関係のあるべき姿を展望する。

島原半島と雲仙地域の主たる強みとして、雲仙地域には火山・自然資源が豊富で、雲仙地域から島原半島周縁につながる地域では、人、食、暮らしに関する資源が豊富であることが挙げられる。

これらを連携させることにより、今日、世界的にも関心が高まっている「自然と人の共生」や、島原半島世界ジオパークの特徴でもある「火山と人の共生」が分かりやすい形で表現できるようになる。また、雲仙地域の観光産業と島原半島の地場産業が連携し、島原半島の産品を雲仙の観光業が積極的に活用、提供することで、雲仙地域は観光客が求める「ほんもの」を提供できる観光地となり、島原半島の地場産業は、地域内消費の拡大と地域外への消費拡大のチャンスを増やすことが可能となることで、互いに活性化し合うことが期待できる。

そして、「国立公園」がこれらを支えられるよう、島原半島最大の集客力を誇る雲仙温泉は、島原半島の広告塔として集客を図り島原半島の魅力を紹介する役割を果たすと同時に、国立公園であることを活かしてビジターセンターやガイドプログラム等を通じて、地域の人や来訪者が自然や歴史に対してより深く関心を持つ機会を提供する。それによって雲仙地域をはじめ島原半島が、自然と地場産業のかかわり、自然と人のかかわりを体験・学習する場となり、その中で雲仙温泉が自然と人、人と人、地域と地域を結び、島原半島と国立公園をつなぐハブ機能を発揮し、真の意味で国立公園の利用拠点「雲仙温泉集団施設地区」としての役割を果たすことが期待される。

こうしたことにより、国立公園を島原半島の地域振興により活かすとともに、国立公園は、より豊かで活力に富んだ島原半島地域を基盤とする、美しく魅力ある公園となることができる。

今後は、島原半島と国立公園である雲仙地域が相互の特徴や強みを活かすことで、互いに際だたせる関係を築き、協力して地域内外に情報を発信するとともに、島原半島周辺地域との連携を図り、一体となって地域を元気にしていくことが、重要であると考えられる。

これらのあるべき姿を実現するための、本プランの基本理念と島原半島の将来像、それらを踏まえた雲仙地域の将来ビジョンを次に示す。

4 雲仙プラン100の基本理念と将来ビジョン

4-1 基本理念

「つながる」

- ・自然と人、人と人、地域と地域が豊かな関係(つながり)を築き、美しく元気な郷土を未来の子どもたちへ伝える(つなげる)。
- ・国内外から人が訪れ(国内外からの来訪者と地域の魅力がつながり)、訪れた人も、住む人も、働く人も、みんなが満足度100%で元気になれる(笑顔でつながる)地域を目指す。

4-2 雲仙地域の将来ビジョンを考える上での前提となる島原半島の将来像

●暮らしの魅力に溢れた美しく豊かな島原半島

●地場産業の活性化した島原半島

島原半島は、自然と人の営みが共生する暮らしの魅力に溢れた美しく豊かな地域である。これは、島原半島に住む人たちが、その自然を大切にしながら、営み(地場産業)を繰り返してきたことにより、島原半島独自の生態系や生物多様性、島原半島らしい景観、独自の文化や技術が守り育まれて来た結果である。

この暮らしの魅力が、地場産業のさらなる活性化によって、よりいきいきと輝き、住む人の誇りとなり、訪れる人をも魅了するものとなる。そうした元気で輝く郷土を未来の子どもたちへ伝える。

●交流、体験、学習の場となる島原半島

●半島の魅力をめぐり長期滞在を楽しめる島原半島

●多くの交流人口を迎え地域経済が盛り上がる島原半島

島原半島の自然・火山と共生する人々の暮らしぶりは、日本らしさや日本人の自然観を示すものとして、未来にわたって、ますます重要な魅力となり、国内外の人々があこがれる生活スタイルの一つになることが予想される。

こうした魅力に支えられ、島原半島に住む人たちとの交流、暮らしの体験、学習型観光を島原半島全体で創り出すことで、国内外から人々が訪れ、長期滞在を楽しめる地域となる。

そして、多くの交流人口を迎えることで、地場産業や観光業等多くの産業が活性化し、また、来訪や体験をきっかけとして地域外への販路等も拡大することにより、地域経済の活性化に寄与する。

4-3 雲仙地域の将来ビジョン

島原半島の将来像を踏まえ、そのために率先して、雲仙地域が出来ることに取り組むことを念頭に、国立公園としての雲仙地域全体の将来ビジョンを示す。さらに、それを受けて雲仙地域の求める姿を牽引していくため、雲仙地域の各利用拠点のあり方を示しつつ、雲仙地域最大の利用拠点である雲仙温泉の将来ビジョンを示す。

1) 雲仙地域の将来ビジョン

- 自然と人、人と人、地域と地域をつなぐ国立公園
- 島原半島全体の地域振興に活用される国立公園
- 島原半島全体で保全再生に取り組む国立公園
- 地域から求められ支えられ誇りとなる「協働型国立公園」

島原半島は、火山活動によって形成された急峻な山々が中央部に聳え、周囲の海から湿気を含んだ空気がぶつかることで霧や雲が発生し、国内でも有数の雨量を誇る地域となっている。1,300メートルの山地から海までがコンパクトにまとまった多様な自然や景観、豊富な雨量によって生じた豊かな地下水によってもたらされる温泉や湧水が重要な観光資源となっている他、多様で豊かな酪農林漁業や地場産業が営まれている。

さらに雲仙地域を中心とした島原半島は、火山や水を中心とした様々な恵みやその“つながり”の中で営まれている豊かな人々の暮らしを、わかりやすく見ることのできる地域であり、国立公園である雲仙地域には、そうした自然や人の営みの“つながり”を学び、体験できる施設が数多く整備されている。

そして、ビジターセンター等の施設や施設が提供するエコツーリズム等のアクティビティーやガイドプログラムを通じて、地域の人や来訪者が自然や歴史についてより関心を持ち、雲仙地域や島原半島の価値を捉え直し、自然と人のかかわりや自然と地場産業のかかわり、人と人、地域と地域の“つながり”を学び、体験できる場が増えることで、島原半島全体に多くの交流人口を迎え、地域振興にも大きく貢献する国立公園となる。

また、地域振興に貢献することで、国立公園ならではの自然・歴史・文化の価値が、より多くの地域の人々に理解され、行政だけでなく地域住民や様々な事業者、更に、エコツーリズム等を通じて訪れた人々の参加・協力を得て、島原半島全体で保全再生活動に取り組むことが重要となる。

これらを実現することで、国立公園のみならず島原半島世界ジオパークとの協働等も含め、「地域から求められ支えられ誇りとなる協働型国立公園」のモデルとして、新たな国立公園の価値を創造し、地域再生と国立公園再生を実現する。

2) 雲仙地域の将来ビジョンを踏まえた各利用拠点のあるべき姿について

雲仙地域内には、国立公園として、雲仙温泉集団施設地区をはじめ、諏訪ノ池集団施設地区、仁田峠、垂木台地、田代原、論所原などの利用拠点があり、ビジターセンターやインフォメーションセンターなどの、地域の人や来訪者にリアルタイムな自然情報や、自然や歴史のつながりを理解する機会を提供できる施設やスタッフが配置されている他、園地や野営場等の自然体験を促す施設も整備されていることから、雲仙地域の将来ビジョンを踏まえ、利用拠点を最大限活用することが必要である。

●各利用拠点の周辺地域との連携強化と、立地特性を活かした機能強化

利用拠点はどれも、雲仙地域を代表する場所に配置されており、それぞれが異なる立地特性を持っている。そこで、それぞれの立地特性を活かし機能強化を図ることとする。特に、周辺地域との連携を積極的に進め、地域の人や来訪者に、より魅力ある情報や交流・体験を提供できるよう機能強化を図ることで、地域振興や周辺地域の資源の保全や再生に寄与することを目指す。

●各利用拠点の役割分担と連携強化

雲仙地域内の各利用拠点だけではなく、国立公園外の利用拠点や各観光組織等とも役割分担しながら連携し、相互に情報を共有し、他の利用拠点の情報も提供することで、来訪者の利便を図り、雲仙地域だけでなく島原半島全体の周遊や滞在を促す。

●自然と人、人と人、地域と地域をつなぐ拠点となる

これらを実現することで、各利用拠点は、国立公園内に留まらずに、島原半島が一体となって地域資源を活用し保全するため、「自然と人、人と人、地域と地域をつなぐ拠点」となることを目指す。

3) 雲仙地域の将来ビジョンを踏まえた雲仙温泉の将来ビジョン

利用拠点の中でも、雲仙地域最大であり、本プランの理念や各将来像を実現するための中核としての役割が期待される、雲仙温泉集団施設地区並びにその周辺の地域で構成される雲仙温泉の将来ビジョンを次に示す。

●国立公園ならではのアクティビティーが充実した雲仙温泉

雲仙地域最大の利用拠点である雲仙温泉を中心に、国立公園ならではの自然・歴史・文化を最大限に活かしたアクティビティーやガイドを充実させ、滞在の楽しみを提供できる観光地となる。

●島原半島の魅力を紹介し、周遊・滞在へと誘う雲仙温泉

島原半島のどこへでも気軽にアクセスできる立地を活かして、国内外から雲仙温泉を訪れる人に、積極的に島原半島の魅力を紹介し、島原半島の周遊・滞在の旅へと誘う利用拠点として、島原半島の長期滞在を牽引する役目を果たす。

●人と地球に優しく、まちと人が輝く「忘れられない」雲仙温泉

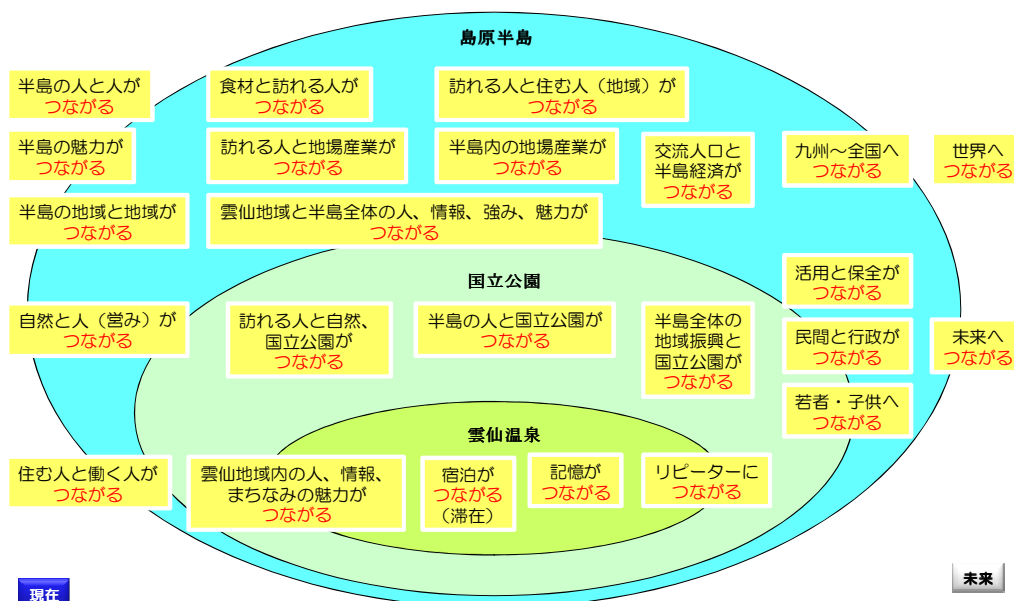
日本最初の国立公園として、人と地球に優しく、自然と共生する先進的なエコ観光地となる。

また、街を歩けば、笑顔で語りかける魅力的な雲仙人や、伝統に裏打ちされたこまやかなおもてなし、島原半島や雲仙の魅力をつんだんに用いた「ほんもの」志向の食や商品に出会える、安全・安心で心地よさに溢れた観光地となる。

●ゆっくり癒される長期滞在型、国際観光地 「雲の上のトレッキングスパリゾート」

雲仙温泉街の根底に流れる山岳信仰や湯治文化、外国人の一大避暑地や日本初の国立公園として賑わいをみせた歴史を活かしながら、雲仙プラン100の将来ビジョンの実現を通し、「忘れられない雲仙ブランド」を確立することで、山の上にある温泉街ならではの「雲の上のトレッキングスパリゾート」として、国内外からリピーターが通う、長期滞在型、国際観光地を目指す。

～つながる雲仙プラン100～



4-4 雲仙地域の将来ビジョンを実現するための基本戦略

雲仙地域の将来ビジョンを実現するため、以下の1～5の基本戦略を設定する。

基本戦略1については、島原半島が一体となって取り組むものうち、率先して雲仙地域が出来ることを中心に戦略を立て、基本戦略2～5は、島原半島と連携をとりながら、雲仙地域が自らの地域において取り組むものをまとめたものである。

基本戦略1 島原半島が一体となった取り組みの強化

島原半島が一体となって交流や相互理解を促進するとともに、相互の特性を活かし、自然や地場産業を活用した交流・体験プログラムを実施し、島原半島全体の交流人口を増やすために、最大限雲仙地域が出来ることに取り組む。

基本戦略2 雲仙地域の自然資源の保全・再生・継承

国立公園第一号に指定された雲仙地域の自然や景観を、行政だけでなく、地域住民や様々な事業者、エコツーリズムやグリーンツーリズムを通じて訪れた人の参加・協力も得て、地域全体で保全・再生し、未来の子どもたちに継承する「協働型国立公園」を目指す。

基本戦略3 人と地球にやさしい国立公園・観光地の実現

雲仙地域の地熱や、島原半島の長い日照時間等の特性を活かした自然エネルギーの活用や、仁田峠のパーク&ライドの実施等による環境配慮型の観光地づくりを目指す。

また、島原半島の地元の食材や材料を活かした生産者の顔がみえる食や商品を提供するとともに、訪れる誰もが心地よく過ごせるためのユニバーサルデザインの導入等、安全・安心な観光地づくりを目指す。

基本戦略4 ゆっくり癒され楽しめる滞在型国立公園・観光地の実現

半日～1泊の滞在延長を目指すところからはじめ、最終的に1週間以上の長期滞在にも対応できる、地域の恵みを活かしたアクティビティーやガイドの充実、各利用拠点の機能強化と連携強化、街あるきをしたくなる湯めぐり等の仕掛けや各商店・飲食店の魅力向上、温泉街としての空間のブラッシュアップ等を実施し、ゆっくり癒され楽しめる「雲の上のトレッキングスパリゾート」を目指す。

基本戦略5 持続可能な推進体制の構築

雲仙プラン100にある各行動計画の実現には、多くの組織や個人がかかわり、それらが相互に協力してはじめて、具体的取り組みが成り立つものである。このため、プラン実現に向けた持続可能な推進組織を設置し、行動計画の実現のための各種調整や推進の支援、プランの進捗評価・見直し、必要な人材育成等を行う。また、実現したものをより効果的に訴求させる戦略的情報発信や、プランの見直しを行うためのマーケティングやブランディング等を繰り返し行う。

5 雲仙地域の将来ビジョンを実現するための行動計画

4-4で設定した1～5の戦略にしたがって、戦略ごとに取り組むべき行動計画を次に整理する。

ここに示す行動計画は、いずれも、雲仙地域の将来ビジョンを実現するために、23年後の将来を見据えながら取り組んでいくものである。その多くが、取り組みを持続的に発展させていくことではじめて効果が期待できるものである。そこで、まずは当面の5～10年で取り組むべき具体的行動内容、実施主体、達成目標を整理した。この行動計画に沿って、具体的活動を継続・発展させていくとともに、概ね5年ごとに、それまでの進捗状況や成果の確認を行い、その時の地域や社会経済、市場の動向を見極めながら行動計画を点検し、次の5～10年の行動計画並びに達成目標を検討・見直すPDCAサイクルを実行しながら将来ビジョンを実現していくものとする。

※各行動計画の全体の実施時期については、添付資料「行動計画実施時期整理表」に整理

また行動計画は、現段階で事業化の確約や予算の確保が行われていないものがほとんどであり、今後具体的な協議や検討を進めながら、予算確保や事業化に向けて努力をするものである。そのため「実施主体」は、今後主体となることが想定される組織や団体を整理している。なお、補助金の拠出や各種許認可や地権者等としてのみの関係者については、実施主体とはしていない。

また、これらの行動計画を進めるために、各行動計画の「実施主体」や関係機関との連携・調整役となって取り組みを進める中間支援機能を果たす組織として「雲仙プラン100地域づくり委員会」を次項6において提案する。

【他にもこんな項目が…】の項目は、現状では、具体性に欠けたり、個々の小さな取り組みであったりと、行動計画として記載するほどではないが、今後具体化を図り、チャンスがあれば実施していくことを期待しているもの。

基本戦略1 島原半島が一体となった取り組みの強化

基本戦略1については、島原半島が一体となって取り組むもののうち、特に島原半島内の交流や相互理解を促進するとともに、相互の特性を活かし、自然や地場産業を活用した交流・体験プログラムを実施し、島原半島全体の交流人口を増やすために、率先して雲仙地域が出来ることを中心に戦略を立てている。

そのため、基本戦略1については、以下を連携先として位置づけ、連携先の取り組みに、雲仙地域が、協力・協働しながら、率先して出来ることを実践し、実現に向けて取り組むことを想定している。

- 連携先 ●島原半島ジオパーク推進連絡協議会、(社)島原半島観光連盟、NPO法人がまだすネット等、島原半島全体を視野に活動している組織。
- 島原半島内の各観光組織や、第一次から三次産業の幅広い組織や事業者。
- 雲仙市、島原市、南島原市、長崎県等の行政機関等。

(※)基本戦略1の各行動計画の実施主体は、上記連携先と協働しながら実施する雲仙地域側の組織及び各行政機関について記載した。

なお、上記連携先と、どの行動計画について取り組みを進めていくのかは、添付資料「島原半島関係組織との連携項目の整理一覧」に整理した。

1-1 相互理解の促進

様々な取り組みを進めていくための第一歩として、雲仙地域と島原半島の人々の相互理解を促進する。このことにより、今後の、雲仙地域と島原半島との一体的取り組みを強化する。

項目	行動内容	実施主体(※)	達成目標
あるもの探しの実施	<ul style="list-style-type: none"> ●島原半島ワーキングと連携して島原半島各地の人たちと交流をしながら、各地の取り組みや、自然、文化、歴史、食材、産品、サービス等の地域資源を相互に把握し、その特性を理解し合うため、継続して「あるもの探し」を実施する。 ●「あるもの探し」の結果を、ホームページ等で公開し、島原半島全体で成果の共有を図る他、雲仙プラン100自体や関連する各行動計画の内容の見直しに反映する。 ●異業種交流、地域間交流、交換留学等を実施する。 	地域づくり委員会(半島連携部会)	5年以内に島原半島各地の人が、相互理解が進んだと実感できることを目指す。 1年に1市1回、計3回以上の実施を目指す。

【他にもこんな項目が…】

行動内容	雲仙の実施主体	見通し
●島原半島の自然や資源の関係性をまとめた島原半島フェノロジーカレンダーの作成、活用をする。	雲仙女将の会 地域づくり委員会(半島連携部会) 雲仙観光協会	1年以内に実施する。
●島原半島写真コンテストを継続実施し、島原半島の隠れた魅力等を発掘し、島原半島全体で共有する。 ・1年間を通して実施し、1年ごとに表彰をし、成果を共有、活用していく。	地域づくり委員会(半島連携部会)	1年目より、毎年実施する。
●子ども向けあるもの探しプログラムや、島原半島を知る教育教材づくりを行い、それらをアクティビティーやイベントへ活用する。	各ビジターセンター、PTA、小・中学校	10年以内に子どもあるもの探しを実施し、教育教材を作成する。

1-2 連携による地場産業の活性化

地域間の連携、一次・二次産業と観光業のなど産業間の連携、地産地消、地域の自然や地場産業を活かしたエコツーリズムやグリーンツーリズムの推進等を通して、地場産業を活性化する。

このことにより、島原半島は多くの交流人口を迎え、地域経済の活性化を得て、暮らしの魅力や自然・景観をより輝かせることができる。

また、雲仙は島原半島のどこへでも気軽にアクセスできる立地を活かして、国内外から訪れる人に、そうした魅力を紹介し、周遊・滞在の旅へと誘う観光拠点となる。

項目	行動内容	雲仙の実施主体	達成目標
自然・地場産業等を活かしたエコツーリズムやグリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●既存の様々な体験プログラムやガイドツアーを展開している NPO やガイドと連携して、ジオパークをはじめとした島原半島ならではの自然や地場産業を活かしたプログラムや宿泊プラン等をつくり、提供する。 ●ジオパーク推進協議会や島原半島観光連盟などが行う体験プログラムづくりやツアーガイドの育成に、積極的に協力、参加する。 ●NPO やガイドとネットワークを構築し、常日頃から情報共有を行い、利用者・エージェント等に対し、一元的情報発信・PR ができるようにしておく。 ●雲仙温泉内に、様々なプログラムやアクティビティ、ガイドを紹介するツアーデスクの設置を行い、利用者に対して一元的情報発信を行う。 ●将来にわたり、持続可能なツーリズムが展開できるよう、体験プログラムやガイドの利益の一部を、地域資源の保全・再生やガイドの育成に再投資する等のしきみを検討する。 	雲仙観光協会 雲仙旅館ホテル組合 雲仙商店協同組合 各事業者 地域づくり委員会 (半島連携部会)	7年以内に、ネットワークの構築を実現し、「島原半島ならではのプログラムや宿泊プラン」を提供する施設が目立つようになる。 12年以内に、持続可能なツーリズムのしきみを検討する。
地域特性を活かした地産地消の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●<再掲>あるもの探しの実施 ●雲仙の誇るスローフードなど、地域で生み出される食材や製品を取り入れるなど、地域特性を活かした店づくりや宿づくり、おみやげ、飲食メニュー、宿泊プラン、サービス、旅行商品づくりなどを行う。 例・農家や漁師と顔が見える関係づくりを行い、それに合わせたメニューづくり等を行い、安全・安心の島原半島産の食材を提供できる飲食店になる。 	雲仙観光協会 雲仙旅館ホテル組合 雲仙商店協同組合 雲仙旅館ホテル協同組合 各事業者、住民 地域づくり委員会 (半島連携部会)	10年以内に、地産地消を売りにした事業者が2～3件出て来るなど、地産地消が進んだと実感できることを目指す。

1-3 半島を楽しむしかけづくり

島原半島には、ジオパークをはじめとした、島原半島ならではの自然豊かな魅力がある。こうした魅力に支えられ、島原半島に住む人々との交流、暮らしの体験プログラムを島原半島全体で創りだすこと等を通じて、島原半島を楽しむしかけづくりを行う。

このことにより、島原半島は、多くの交流人口を迎え、地域経済の活性化を得て、暮らしの魅力や自然・景観を、より輝かせることができる。

また、雲仙はそうした魅力を、島原半島のどこへでも気軽にアクセスできる立地を活かして、国内外から訪れる人にそうした魅力を紹介し、周遊・滞在の旅へと誘う観光拠点となる。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
<再掲> 自然・地場産業等を活かしたエコツーリズムやグリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●既存の様々な体験プログラムやガイドツアーを展開している NPO やガイドと連携して、ジオパークをはじめとした島原半島ならではの自然や地場産業を活かしたプログラムや宿泊プラン等をつくり、提供する。 ●ジオパーク推進協議会や島原半島観光連盟などが行う体験プログラムづくりやツアーガイドの育成に、積極的に協力、参加する。 ●NPO やガイドとネットワークを構築し、常日頃から情報共有を行い、利用者・エージェン等に対し、一元的情報発信・PR ができるようにしておく。 ●雲仙温泉内に、様々なプログラムやアクティビティ、ガイドを紹介するツアーデスクの設置を行い、利用者に対して一元的情報発信を行う。 ●将来にわたり、持続可能なツーリズムが展開できるよう、体験プログラムやガイドの利益の一部を、地域資源の保全・再生やガイドの育成に再投資する等のしきみを検討する。 	雲仙観光協会 雲仙旅館ホテル組合 雲仙商店協同組合 各事業者 地域づくり委員会(半島連携部会)	7年以内に、ネットワークの構築を実現し、「島原半島ならではのプログラムや宿泊プラン」を提供する施設が目立つようになる。 12年以内に、持続可能なツーリズムのしきみを検討する。
島原半島周遊コースづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●地域や産業を越えた、島原半島の魅力を巡るコース(島原半島周遊モデルコース)づくりを行う。 ●島原半島内の移動中も、魅力を感じ、楽しんでもらうため、眺望ポイントやジオサイトなどのシーニックポイントや、シーニックパイウエー(景観など、お勧めの魅力的なルート)を選定する。 	雲仙観光協会 地域づくり委員会(半島連携部会)	7年以内に、モデルコースを10コースづくり、シーニックポイントを20カ所、シーニックパイウエーを10ルート選定する。
ツアーデスクの設置、一元的情報発信	<再掲> <ul style="list-style-type: none"> ●NPO やガイドとネットワークを構築し、常日頃から情報共有を行い、利用者・エージェン等に対し、一元的情報発信・PR ができるようにしておく。 ●雲仙温泉内に、様々なプログラムやアクティビティ、ガイドを紹介するツアーデスクの設置を行い、利用者に対して一元的情報発信を行う。 	雲仙観光協会 地域づくり委員会(半島連携部会)	5年以内に、ツアーデスクを設置する。
火山との共生の学習や防災学習の推進、修学旅行への活用	<ul style="list-style-type: none"> ●ジオパークが推し進める、1792年におきた島原大変・肥後迷惑や、1990年の平成噴火の教訓・遺構を活かした防災学習や、災害と暮らしの共生の考え方、災害ボランティアのノウハウなど、現代社会における火山との共生の知恵の伝承の取り組みについて、支援する。 ●防災学習を活用した様々なプログラムやアクティビティ、ガイド、修学旅行・研修旅行の受入体制を整える。 	雲仙観光協会 雲仙旅館ホテル組合	10年以内に、防災学習修学旅行を確立する。
島原半島が一体となったイベント	<ul style="list-style-type: none"> ●島原半島の高低差や海や山の多様さがコンパクトにまとまった島原半島の特徴を活かしたイベントを実施する。 例・シー・トゥー・サミット、ツールド島原半島、… 	雲仙青年観光会 雲仙観光協会 地域づくり委員会(半島連携部会)	10年以内に定期的な実施できるようなイベントを実施・定着する。

【他にもこんな項目が…】

行動内容	実施主体	見通し
<p>●島原半島内アクセス網の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 島原半島の各交通機関等と連携して、ホームページ上での、島原半島へのアクセス情報や公共交通機関の乗り継ぎ情報案内システムを構築し、発信を行う。また、スムーズな乗り継ぎ連絡のダイヤ調整等を働きかける。また、各観光拠点施設で乗り継ぎやアクセス情報のアナウンスを行うよう働きかける。 島原半島と周辺地域を結ぶフェリーやバス等の交通機関内において島原半島の観光案内を充実させる。 	<p>雲仙観光協会、各事業者、雲仙市、島原市、南島原市</p>	<p>5年以内を実現する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 島原半島の真ん中を通る九州自然歩道の情報や、地域の既存トレイルと連携した情報発信を行う。 必要に応じて、九州自然歩道と他のトレイルとの接続・連携や、それを行うための道標、標識の整備を検討する。 	<p>雲仙観光協会 長崎県(自然部局)、雲仙市、島原市、南島原市 九州地方環境事務所</p>	<p>5～15年以内に九州自然歩道の利用を促進する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、シーニックポイント、写真撮影ポイントやシーニックルートのサイン整備等を検討する。 	<p>雲仙観光協会、雲仙市、島原市、南島原市、九州地方環境事務所</p>	<p>10～15年以内にサインの充実に取り組む。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 安価なレンタカー、乗合タクシー、コミュニティーバス等、地域内交通の充実を検討する。 	<p>雲仙観光協会、雲仙自治会、雲仙市、島原市、南島原市</p>	<p>10～15年以内に今より、地域内交通を充実に取り組む。</p>

1-4 半島資源の保全・継承

島原半島の地域資源を守り育て、これらを地域振興に活かし、その活力によって今より質を高めて未来の子どもたちへ伝える。

このことにより、ジオパークをはじめとした島原半島ならではの自然や景観、そこから生まれる暮らしの魅力、将来にわたってより輝かせ、住む人の誇りとなって訪れる人を魅了し続けることができる。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
<再掲> 自然・地場産業等を活かしたエコツーリズムやグリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●既存の様々な体験プログラムやガイドツアーを展開している NPO やガイドと連携して、ジオパークをはじめとした島原半島ならではの自然や地場産業を活かしたプログラムや宿泊プラン等をつくり、提供する。 ●ジオパーク推進協議会や島原半島観光連盟などが行う体験プログラムづくりやツアーガイドの育成に、積極的に協力、参加する。 ●NPO やガイドとネットワークを構築し、常日頃から情報共有を行い、利用者・エージェント等に対し、一元的情報発信・PR ができるようにしておく。 ●雲仙温泉内に、様々なプログラムやアクティビティ、ガイドを紹介するツアーデスクの設置を行い、利用者に対して一元的情報発信を行う。 ●将来にわたり、持続可能なツーリズムが展開できるよう、体験プログラムやガイドの利益の一部を、地域資源の保全・再生やガイドの育成に再投資する等のしきみを検討する。 	雲仙観光協会 雲仙旅館ホテル組合 雲仙商店協同組合 各事業者 地域づくり委員会 (半島連携部会)	7年以内に、ネットワークの構築を実現し、「島原半島ならではのプログラムや宿泊プラン」を提供する施設が目立つようになる。 12年以内に、持続可能なツーリズムのしきみを検討する。
<再掲> 火山との共生の学習や防災学習の推進、修学旅行への活用	<ul style="list-style-type: none"> ●ジオパークが推し進める、1792 年におきた島原大変・肥後迷惑や、1990 年の平成噴火の教訓・遺構を活かした防災学習や、災害と暮らしの共生の考え方、災害ボランティアのノウハウなど、現代社会における火山との共生の知恵の伝承の取り組みについて、支援する。 ●防災学習を活用した様々なプログラムやアクティビティ、ガイド、修学旅行・研修旅行の受入体制を整える。 	雲仙観光協会 雲仙旅館ホテル組合	5年以内に、防災学習修学旅行を確立する。

【他にも、こんな項目が…】

行動内容	実施主体	見通し
<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙で行っているクリーンアップ作戦と、南島原市でのクリーンアップ作戦が連携すると共に、島原半島全体でのクリーンアップ作成を実施する。 	雲仙観光協会 雲仙を美しくする会 九州地方環境事務所、 南島原市、雲仙市、島原市	5年以内に、島原半島統一斉クリーンアップ作戦を実現する。
<ul style="list-style-type: none"> ●地権者や関係機関との調整をしつつ、百年の森づくり、温泉岳の会等、と協働を促進することで、島原半島の森林の間伐の促進や本来の雑木林・紅葉樹への樹種転換等による、森の健全化や、耕作放棄地や棚田の手入れ・修復に協力する。 	雲仙観光協会 雲仙を美しくする会 地域づくり委員会(半島連携部会、景観整備・エコ部会)	5～10年以内に、年1カ所程度の間伐や耕作放棄地や棚田の修復へ協力する。
<ul style="list-style-type: none"> ●<再掲>子ども向けの体験プログラムや、環境教育教材づくりを行い、それらを、アクティビティやイベント、修学旅行・研修旅行へ活用する。 	各ビジターセンター、 PTA、教育機関 雲仙観光協会、雲仙旅館ホテル組合	10年以内に、環境学習修学旅行を確立する。

1-5 半島が一体となったマーケティング、ブランディング、戦略的情報発信

雲仙地域は、島原半島の一員として、ともにマーケティングや、その結果を踏まえたブランディング、戦略的情報発信を行う。

そのことにより、多様で豊かな島原半島地域の魅力をより効果的に伝え、観光客の誘致活動や島原半島の製品の販売などにおいて、島原半島地域が一体となったマーケティング戦略、ブランディング戦略の元、それぞれの地域で機能分担し、連携をしていくことが実現され、島原半島が一体となった取り組みの強化が図られる。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
島原半島が一体となったマーケティング	<ul style="list-style-type: none"> ●島原半島が一体となって行う、マーケティング等の勉強会や、マーケティング調査等に、積極的に参加し、雲仙の情報については提供を行いながら、島原半島全体のマーケティング結果の共有を図る。 例・島原半島共通のアンケート調査の実施協力や、雲仙で実施したアンケート結果の提供等。 ●島原半島が一体となって行うマーケティング戦略等について、積極的に協力・協働する。 	各事業者、雲仙観光協会、地域づくり委員会(総務部会)	島原半島のマーケティング関連の取り組みにあわせて実施
島原半島が一体となったブランディング	<ul style="list-style-type: none"> ●島原半島が一体となって行うブランディング戦略等について、積極的に協力・協働する。 ●島原半島が一体となったブランディング戦略を踏まえ、雲仙地域においても、商品づくりや、情報発信の仕方、売り出し方をはじめ、本ブランドの各行動計画をどうアレンジしていくのか等、検討し、様々な取り組みに反映させる。 		
島原半島が一体となった地域外への戦略的情報発・PR	<ul style="list-style-type: none"> ●島原半島が一体となったマーケティング戦略・ブランディング戦略を踏まえた多様な手法による訴求力のある豊富な情報提供を実践する。 ●〈再掲〉島原半島の各交通機関等と連携して、ホームページ上での、島原半島へのアクセス情報や公共交通機関の乗り継ぎ情報案内システムを構築し、発信を行う。また、スムーズな乗り継ぎ連絡のダイヤ調整等を働きかける。また、各観光拠点施設で乗り継ぎやアクセス情報のアナウンスを行うよう働きかける。 ●訴求力を高めるため、島原半島が一体となった紙媒体の見直しを行う。 例・島原半島のイメージカラーをつくり、パンフレットやチラシのカラーリングやデザインに統一性を持たす ・海編、里編、山編、ジオ編等、シリーズ化する 等 ●島原半島が一体となった各種イベントも、漫然と実施するのではなく、情報発信のひとつと考え、訴求させたい情報やイメージにあわせて、戦略的にイベントの内容や時期を検討し実施する。 ●最先端技術を駆使した映像や音情報の蓄積を行い、一元的管理を行い、活用、発信する。 	雲仙観光協会、各事業者	島原半島のマーケティング関連の取り組みにあわせて実施

基本戦略2 雲仙地域の自然資源の保全・再生・継承

2-1 国立公園をはじめとした雲仙の自然資源の保全・再生・継承

雲仙の自然資源について、行政だけでなく、地域住民の参加・協力、またエコツーリズムやグリーンツーリズムを通じて訪れた人の参加・協力も得て、地域全体で保全再生活動を行うことで、今より質を高めて未来の子どもたちへ伝える。

このことにより、国立公園をはじめとした雲仙地域ならではの自然や景観、そこから生まれる歴史や文化を、将来にわたってより輝かせ、住む人の誇りとなって訪れる人を魅了し続けることができる。また、これらを通じて、あらたな国立公園のあり方である協働型国立公園を実現する。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
アクセス道路の景観改善	●雲仙へのアクセスや島原半島内の移動中も、車窓から手軽に景観の魅力を楽しんでもらうため、地権者や関係機関との調整をしつつ、シーニックポイントやシーニックバイウエーを中心に、眺望や景観を確保する。通景伐採や緑のトンネルの保全など、場所に合わせた景観保全・改善方法を選定し、対策を実施する。対策後の維持管理も実施する(百年の森づくり、温泉岳の会等、既存市民活動組織との連携・協働)。	地域づくり委員会 (景観整備・エコ部会、半島連携部会)	5年以内に形が見え、10年以内に取り組みが進んだと実感できることを目指す。
国立公園の保全・活用	●普賢岳噴火後の状況や、島原半島世界ジオパーク、雲仙プラン100等に合わせた公園計画、管理計画の見直しを必要に応じて行う。	九州地方環境事務所	5年以内に実施する。
国立公園の協働型管理運営の実現	●国立公園の協働型管理運営を実現する。 例・エコツーリズムやグリーンツーリズム推進により、保全・再生・活用の一体的推進を図る。 <再掲>自然・地場産業等を活かしたエコツーリズムやグリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進 ●既存の様々な体験プログラムやガイドツアーを展開している NPO やガイドと連携して、ジオパークをはじめとした島原半島ならではの自然や地場産業を活かしたプログラムや宿泊プラン等をつくり、提供する。 ●プログラムやガイドの収益の一部を、地域資源の保全・再生に活用することを検討する。 ●NPO やガイドとネットワークを構築し、常日頃から情報共有を行い、利用者・エージェント等に対し、一元的情報発信・PRができるようにしておく。 ●雲仙温泉内に、様々なプログラムやアクティビティ、ガイドを紹介するツアーデスクの設置を行い、利用者に対して一元的情報発信を行う。	雲仙観光協会 雲仙旅館ホテル組合 雲仙商店協同組合 各事業者 地域づくり委員会 (半島連携部会)	7年以内に、ネットワークの構築を実現し、「島原半島ならではのプログラムや宿泊プラン」を提供する施設が目立つようになる。 12年以内に、持続可能なツーリズムのしくみを検討する。
	・<再掲>市民参加によるミヤマキリシマ・原生沼の保全再生活動 ・<再掲>地元の人による、登山道の維持管理やパトロール活動、入口でのレクチャー活動を促進する。 ・ボランティア活動の活性化(ビジターセンター案内、ミニガイド、修繕、自然情報の収集等)	九州地方環境事務所、長崎県(自然部局)、雲仙市、島原市、南島原市、地域づくり委員会(景観整備・エコ部会)	5年以内に形が見え、10年以内に取り組みが進んだと実感できることを目指す。
	・<再掲>子ども向けの体験プログラムや、環境教育教材づくりを行い、それらを、アクティビティやイベント、修学旅行・研修旅行へ活用する。	各ビジターセンター、教育機関、雲仙観光協会、雲仙旅館ホテル組合	

項目	行動内容	実施主体	達成目標
ミヤマキリシマの保全再生	<ul style="list-style-type: none"> ●美しくする会や、長崎県によるミヤマキリシマの下草刈りによる保全再生活動を継続する。 ●牧羊による下草管理(ゴルフ場での放牧との連携を図る)等、ミヤマキリシマ群落の保全・再生手法の検討調査を行い、より良いミヤマキリシマの保全再生手法を検討、確立し、必要に応じて他群落等へ応用を検討する。 	雲仙を美しくする会 雲仙自治会 長崎県(自然部局) 九州地方環境事務所	保全再生活動は、将来にわたり、継続して実施していく。 保全手法の検討は、5年を目標に手法を確立する。
山岳保全管理の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●普賢岳新規ルートに絡んだガイド利用の推奨、入口でのレクチャー制度の導入等の検討をすすめる(山岳会、ジオパーク、ガイド協会等既存市民活動組織との連携・協働)。 ●登山ガイドの育成や、様々な組織が実施する登山ガイドの育成を支援する(山岳会、ジオパーク、ガイド協会等既存市民活動組織との連携・協働)。 ●地元の人による、登山道の維持管理やパトロール活動、入口でのレクチャー活動(雲仙レンジャーづくり)を促進する。 ●山岳保全管理の活動拠点(レンジャー's カフェ)をつくる。 	地域づくり委員会 (景観整備・エコ部会、自然活用部会)	10年以内に地元の中で、登山ガイドや登山道の維持管理やパトロール・レクチャーにかかわり、参加している人を生み出す。
登山道の景観改善	<ul style="list-style-type: none"> ●登山道中や山頂などで、かつての眺望が望めなくなった場所を選定し、地権者や関係機関との調整をしつつ、可能な範囲での通景伐採など景観改善作業を実施し、その後も、定期的管理を実施する。 	地域づくり委員会 (景観整備・エコ部会、半島連携部会、自然活用部会)	5～10年以内に取り組みが進んだと実感できることを目指す。
原生沼の再生	<ul style="list-style-type: none"> ●乾燥化が進み、かつての彩りが失われつつある九州最大級のミズゴケ湿原「原生沼」(国指定天然記念物)について、地権者や関係機関と調整をしつつ、調査を行い、乾燥化の防止などの再生計画を立案し、「植生復元事業」や「景観回復事業」としての実施を検討する。また、効果的・効率的な維持管理手法を検討、確立し、住民との協働による草刈り作業などを継続実施し、ノウハウの蓄積と継承を行い、再生させる。 ●自然の遷移の様子が分かる解説板を設置する。 	雲仙を美しくする会 雲仙自治会 長崎県(自然部局) 九州地方環境事務所	5～10年以内に着手し、再生計画、維持管理手法を検討。 15年以内で維持管理手法を確立し、再生活動を軌道に乗せ、25年以内で再生を実現する。
温泉の保全、持続活用	<ul style="list-style-type: none"> ●既存アスファルトの透水性舗装へのやり変えや、屋根や街に降った雨を土壌に浸透させる等、雲仙地域内の水資源の循環を維持する取り組みを進める。 ●必要に応じて、源泉の一元化を検討する。 	雲仙旅館ホテル組合、源泉使用者 九州地方環境事務所、長崎県(自然部局)	10年以内に形が見え、15年以内に取り組みが進んだと実感できることを目指す。
雲仙遺産計画	<ul style="list-style-type: none"> ●後世に残したい自然、歴史、文化、食、人、技、温泉、建物、景観、風景等々の保全に向け、「雲仙遺産」の選定を行う。 ●選定された「雲仙遺産」の保全計画、持続可能な活用計画をつくる。 	雲仙ロータリークラブ	5年以内に実施する。

基本戦略3 人と地球にやさしい国立公園・観光地の実現

3-1 環境・景観に配慮した取り組み・循環型まちづくりの促進

既存の様々な施設や仕組みなどを環境や景観の保全の面から見直し、雲仙地域の地熱や島原半島の長い日照時間等の特性を活かした自然エネルギーの活用、仁田峠のパーク＆ライドの実施等による環境配慮型の観光地づくりを行う。

このことにより、日本最初の国立公園にふさわしい、人と地球に優しく、自然と共生する先進的エコ観光地となり、「忘れられない雲仙ブランド」を確立する。また、これらを通じて、国立公園のエコ化を進める。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
燻付けのエコ化と地獄景観の改善	<ul style="list-style-type: none"> ●地獄の美観整備を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・燻付けの一元化や、燻付け場や源泉・配管の素材の見直しや、配管の路線統一、隠す工夫や見せる工夫、古い配管の撤去などを行う。また、燻付け場にエコ解説板を設置し、利用者に施設の意味の理解を促すとともに、燻付け場や源泉に施設名板を設置し、各施設の整理整頓を促進する。 ●燻付けを一元化し、熱効率の向上と集中管理を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・燻付けを実施している全事業者による合意形成を行い、燻付け一元化に向けた熱量の調査、一元化エリアの検討、配管計画の立案等を行う。また、同時に、燻付け場を使用する全事業者による管理運営組織を立ち上げ、J-ver 導入の検討も含め、管理手法の検討を行う。その後、役割分担を行い、初期整備を九州地方環境事務所や管理運営組織等で実施し、管理運営組織で維持管理・運営を行っていく。 	雲仙旅館ホテル組合 燻付け使用者 九州地方環境事務所	10年以内に実現する。
自動車交通のエコ・安全化	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関との調整をしつつ、仁田峠のパーク＆ライドについて、実証実験を重ねながら、実施方法の改良を行い、本格実施に向けて検討を進める。 ●地権者や関係機関との調整をしつつ、パーク＆ライド本格導入に向けた大型駐車場の整備を検討する。 候補地：パークホテル、高原ホテル、県営バス跡地、仁田峠入口空き地等 ●乗り換えシャトルバスのエコ化や、エコステーションの検討も行う。 ●雲仙地域内の、(電動)自転車、シニアカーの貸し出しの利用を促進する。 ●島原半島のどこへでも気軽にアクセスできる立地を活かし、雲仙が発着基地となり、島原半島を周遊するための電気自動車の導入を図る 	仁田峠パーク＆ライド実証実験実行委員会、雲仙市、九州地方環境事務所 雲仙商店協同組合 雲仙観光協会、雲仙市	5年以内にパーク＆ライドの本格実施を実現し、10年以内に、大型駐車場の整備を実現する。 5年以内に、貸し出し数が増加する。 10年以内に導入開始、10～15年以内に島原半島周遊の基地となるよう取り組み、働きかける。
雲仙温泉街の景観あり方の検討、設定	<ul style="list-style-type: none"> ●今後の雲仙温泉街の宿の規模や意匠、屋外広告物、のぼり、照明等、景観のあり方を検討し、一定の指針を作成する。将来的に、雲仙全体で望ましい景観となるよう取り組む。 	雲仙旅館ホテル組合	5～10年以内に一定の指針を作成し、25年以内に実現する。
自然エネルギーの活用(CO2排出抑制)推進による循環型まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●温泉資源に影響の無い範囲で、地表熱や利用後の温泉廃熱などの未利用熱資源の利用を促進し、CO2排出抑制と燃料代の削減を目指す。 ●景観に配慮した中での鴛鴦の池や白雲の池でのマイクロ水力発電や、各施設の中に景観に影響を与えない形でのマイクロ風力発電や太陽光発電施設を組み込む等の自然エネルギーの利用を促進する。 ●各施設から出る廃油や残渣の活用、間伐材・家畜糞尿等によるバイオマスエネルギー利用など、3R(リユース、リデュース、リサイクル)を促進する。 	雲仙観光協会、雲仙旅館ホテル組合	10～15年以内に、内容を具体化し、25年以内に実現する。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
牧羊による放牧・草原景観の維持	<ul style="list-style-type: none"> ●ゴルフ場等において、牧羊による放牧・草原景観の維持を図りながら、将来的に、毛や食肉、加工品の販売などにより収入を得て、放牧が維持できるよう循環型システムを構築する。 ●また、牧羊によるミヤマキリシマ群落の保全・再生にもつなげ、将来にわたり、安定的に雲仙の景観を維持する。 	ゴルフ場地主組合、雲仙観光協会、地域づくり委員会(自然活用部会)	すぐにも着手し、研究を重ね、5年以内で 20~30 頭が放牧され、10 年以内に、循環型システムを構築する。

【例えば、こんな項目が…】

行動内容	実施主体	見通し
<ul style="list-style-type: none"> ●使った資源(水・空気)を綺麗にして自然に戻す 例・宿等で、環境に良い石けんを使用する など 	雲仙観光協会、雲仙旅館ホテル組合	5年以内に実施する。

3-2 安全・安心な食、商品、サービスの提供 及び まち歩きのための整備

島原半島の食材や材料にこだわり、生産者の顔がみえる食や商品を提供するとともに、火山との共生や防災学習の推進を通しての安全・安心の提供、笑顔で語りかける魅力的な雲仙人の育成や伝統に裏打ちされたこまやかなおもてなしの実践、国外からの来訪者も含め、訪れる誰もが心地よく過ごせるためのユニバーサルデザインの導入などを行う。

このことにより、安全・安心で心地よさに溢れた国際的な観光地となり、「忘れられない雲仙ブランド」を確立する。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
<p><再掲> 地域特性を活かした地産地消の促進</p>	<p>●<再掲>あるもの探しの実施</p> <p>●雲仙の誇るスローフードなど、地域で生み出される食材や製品を取り入れるなど、地域特性を活かした店づくりや宿づくり、おみやげ、飲食メニュー、宿泊プラン、サービス、旅行商品づくりなどを行う。</p> <p>例・農家や漁師と顔が見える関係づくりを行い、それにあわせたメニューづくり等を行い、安全・安心の島原半島産の食材を提供できる飲食店になる。</p>	<p>雲仙観光協会 雲仙旅館ホテル組合 雲仙商店協同組合 雲仙旅館ホテル協同組合 各事業者、住民 地域づくり委員会(半島連携部会)</p>	<p>5年以内に、地産地消を売りにした事業者が2～3件出て来るなど、地産地消が進んだと実感できることを目指す。</p>
<p><再掲> 自然・地場産業等を活かしたエコツーリズムやグリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進</p>	<p>●既存の様々な体験プログラムやガイドツアーを展開しているNPOやガイドと連携して、ジオパークをはじめとした島原半島ならではの自然や地場産業を活かしたプログラムや宿泊プラン等をつくり、提供する。</p> <p>●ジオパーク推進協議会や島原半島観光連盟などが行う体験プログラムづくりやツアーガイドの育成に、積極的に協力、参加する。</p> <p>●NPOやガイドとネットワークを構築し、常日頃から情報共有を行い、利用者・エージェント等に対し、一元的情報発信・PRができるようにしておく。</p> <p>●雲仙温泉内に、様々なプログラムやアクティビティ、ガイドを紹介するツアーデスクの設置を行い、利用者に対して一元的情報発信を行う。</p> <p>●将来にわたり、持続可能なツーリズムが展開できるよう、体験プログラムやガイドの利益の一部を、地域資源の保全・再生やガイドの育成に再投資する等のしきみを検討する。</p>	<p>雲仙観光協会 雲仙旅館ホテル組合 雲仙商店協同組合 各事業者 地域づくり委員会(半島連携部会)</p>	<p>5年以内に、ネットワークの構築を実現し、「島原半島ならではのプログラムや宿泊プラン」を提供する施設が目立つようになる。</p> <p>10年以内に、持続可能なツーリズムのしきみを検討する。</p>
<p><再掲> 火山との共生の学習や防災学習の推進、修学旅行への活用</p>	<p>●ジオパークが推し進める、1792年におきた島原大変・肥後迷惑や、1990年の平成噴火の教訓・遺構を活かした防災学習や、災害と暮らしの共生の考え方、災害ボランティアのノウハウなど、現代社会における火山との共生の知恵の伝承の取り組みについて、支援する。</p> <p>●防災学習を活用した様々なプログラムやアクティビティ、ガイド、修学旅行・研修旅行の受入体制を整える。</p>	<p>雲仙観光協会 雲仙旅館ホテル組合</p>	<p>5年以内に、防災学習修学旅行を確立する。</p>
<p>おもてなしの心による安全・安心の国立公園・観光地づくり</p>	<p>●地域全員が、行き交う観光客に笑顔や挨拶を行うなど、雲仙全体で自然なおもてなし力が向上するよう取り組む。</p> <p>●住民の一人一人が身近な自然や歴史や温泉など何かしらの案内・自慢が出来るようになり、観光客に気軽に、一言ガイドが出来るように、「住民にこにこガイド」の育成を行う。</p> <p>●宿泊施設、小売店、飲食店合同による「おもてなしセミナー」(雲仙天草観光圏整備計画より)を継続する。</p>	<p>住民、各事業者、雲仙商店協同組合、飲食店組合、雲仙湯のまち通りを考える会、雲仙お山の情報館、地域づくり委員会(まち歩き部会)</p>	<p>2年以内に、「住民にこにこガイド」の育成に着手し、5年以内に「住民にこにこガイド」が定着し、温泉街の雰囲気の変化を感じられるよう、取り組みを進める。</p>

項目	行動内容	実施主体	達成目標
雲仙に誇りをもち、訪れる人に伝えられる観光地づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●住民、スタッフ、子ども向け等の、地域講座(雲仙学)を開催する。 <ul style="list-style-type: none"> ・住んで良かった、これからも住もうと思える、住民向け講座の開催。 例:住民向け雲仙検定(住民 1000 人が何かの〇〇仙人を目指す!)を実施 →住民にここがガイドや山岳ガイド育成などへのきっかけにする。 ・働けて良かった、これからも働きたいと思える、スタッフ向け講座を開催する。 例:はじめての雲仙さがし ・産まれて良かった、帰ってこようと思える、子ども向け講座やイベントを開催する。 例:森学校、<再掲>子ども向けあるもの探しや雲仙や島原半島を知る教材づくりを行い、それらをアクティビティーやイベントへ活用する。 ●雲仙の人たちの気持ち、誇りが詰まった雲仙人ガイドブックを発行する。 ●雲仙で働きたくなる環境づくりを行う。 例・ステップアップ研修の定期開催、女将によるおもてなし講座 ・雲仙外から来て、雲仙で働く人たちが、雲仙を好きになって、住みやすくなるよう、交流会や、地域サークル、地域運動会、住民文化祭などを開催する。 例・ベッドメイキング選手権、配膳選手権、ボイラーマン選手権、湯守選手権、山選手権、……→将来的に全国、世界大会へ! 	雲仙観光協会 雲仙お山の情報館 地域づくり委員会(総務部会)	取り組めるものから着手する。 住民:5年以内に「住民にここがガイド」が定着する。 スタッフ:5年以内に、3年以上定着するスタッフを3割以上にする。 10年以内に、雲仙で働きたいという人を増やす。 子ども:5年以内に、子どもがもつと雲仙の自然の中で遊ぶようになる。
ユニバーサルなおもてなしの促進	<ul style="list-style-type: none"> ●各旅館や商店、観光施設等で、外国人対応や筆談などの身障者対応など、主にソフトで対応できるユニバーサル化に配慮したおもてなしの意識醸成を体験講習会やワークショップなどを通じて行い、実践する。 	各事業者、雲仙観光協会	5年以内に着手し、10年以内にソフト対策の充実を目指す。
ユニバーサルなデザインの導入	<ul style="list-style-type: none"> ●国立公園の利用拠点や興味地点等の歩道やトイレ、ビジターセンターなどの利用施設やサインなどについて、ユニバーサルデザインの視点から点検を行い、必要に応じて再整備を検討する。 ●整備状況や利用可能範囲などの事前の情報発信について、ユニバーサルデザインの視点から点検を行い、必要に応じて改善を行う。 	九州地方環境事務所、長崎県(自然部局)、雲仙市、国土交通省 各事業者、雲仙観光協会、雲仙市観光協議会	10年以内に着手し、15年以内に再整備する。
緊急時の迂回道路の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●温泉街の安全・安心なまち歩き、緊急時のライフライン確保のための迂回道路(市道等、原生沼～県道千々石線)の確保に向けた取り組みを進める。 	雲仙自治会、雲仙湯のまち通りを考える会	15年以内で形が見え、25年以内で実現出来るよう、取り組み、働きかけを行う。

基本戦略4 ゆっくり癒され楽しめる滞在型国立公園・観光地の実現

4-1 自然を楽しむ新たな仕組み・仕掛けづくり

雲仙地域の最大の魅力である山、地獄、温泉等の地域の恵みを活かしたアクティビティーやガイドの充実などを通じ、自然を楽しむ新たな仕組み・仕掛けづくりを行う。

このことにより、雲仙での滞在を満喫するための自然の魅力向上（ブランディング）を図り、長期滞在型ゆっくり癒される「雲の上のトレッキングスパリゾート」を実現する。また、これらを通じて、新しい観光・滞在のあり方を提供できる国立公園となる。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
地獄・温泉の魅力向上	<p><地獄></p> <p>●様々なアクティビティーの開発、実施をし、地獄を積極的に活用する。 例・天然岩盤浴、エコタツ、星空観察会…</p>	地域づくり委員会（自然活用部会）、雲仙観光協会、雲仙お山の情報館	アクティビティーの開発、実施は、すぐに着手し、5年以内に実施する。
	●蒸し場(地獄釜)の整備を行い、商店街で購入した食材等を蒸せる仕組みづくりを行う。	雲仙市、雲仙観光協会、雲仙商店協同組合、地域づくり委員会(まち歩き部会)	地獄の滞在時間を、5年以内に平均30分程度から1時間程度にする。
	●地獄を見るだけの場所から、より魅力を体感できる場所にするため、体感園路の整備を検討する。	九州地方環境事務所	
	<p><温泉></p> <p>●泉質やロケーションの違いを活かした「湯めぐり」や、温泉ソムリエ育成など温泉を活用した新たなサービスを検討し実施する。</p>	雲仙旅館ホテル組合、雲仙観光協会、地域づくり委員会(まち歩き部会)	「湯めぐり」は、2年以内にシステムを確立し、5年以内に年間5万人の利用を目指す。その他も、5年以内に実施できるよう具体化に着手する。
●地権者や関係機関との調整をしつつ、雲仙温泉の特徴が良く表れた場所を創出する 例・海と山を見渡せる岳道露天風呂の整備	雲仙観光協会	10年以内に実現する。	
白雲の池・綱笠山の魅力向上	<p><白雲の池> ※温泉街から近かつては利用が盛んで雲仙地域の中心的魅力であった</p> <p>●池や周囲の森を活用し、火や水が使えるキャンプ場ならではの利点を活かしたアクティビティーの開発、実施を行う。</p> <p>●最大の魅力である池と雲仙の主峰群が見えるよう、通景伐採を行う。</p> <p>●温泉街からのアクセス性を高めるため、温泉街からの入口での白雲の池の見どころ情報の提供や、誘導標識などのエントランス整備や歩道の改修などアクセスルートの改善を実施する。</p> <p>●体験できる園地としての再整備を中心に、駐車場からのアクセスルートや池まわり園路のユニバーサル化、BBQなどのデーキャンプや様々なアクティビティーや体験のできる「体験エリア」や、見晴らしの良いデッキなどの「くつろぎエリア」の整備を行う。</p> <p>●池周辺の明るい森づくり(人工林から広葉樹へ転換)を実施する。アクティビティーの一環として実施することも検討する。</p> <p>●いずれも、地権者や関係機関との調整をしつつ、実施する。</p>	<p>地域づくり委員会（自然活用部会、景観整備・エコ部会）、雲仙お山の情報館、雲仙観光協会</p> <p>アクティビティー、ソフト：地域づくり委員会(自然活用部会、景観整備・エコ部会)、雲仙お山の情報館、雲仙観光協会</p> <p>ハード：九州地方環境事務所</p>	アクティビティーの開発、実施は、すぐに着手し、5～10年以内に、白雲の池の利用者を、1000人規模から1万人規模にする。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
	<p><絹笠山> ※ 温泉街から近くかつては利用が盛んで雲仙地域の中心的魅力であった</p> <p>●かつては、サンセットヒルと呼ばれ親しまれていた魅力を再生させるため、絹笠山サンセットトレッキングなど、絹笠山の魅力を活用したアクティビティーや、山頂でランチやコーヒーブレイクを楽しめるアクティビティーなどを検討し、実施する。</p> <p>●山頂の景色などの見どころ情報の提供や、誘導標識、明るい雰囲気づくりなど登山しやすくなるような登山口の演出や、360度の眺望が楽しめる展望岩までの新ルートの整備、海・温泉街・山の展望景観をより魅力的なものとする可能な範囲での通景伐採など、地権者や関係機関との調整をしつつ、楽しめる登山道の再整備を行う(既存施設については、必要に応じて再整備を検討する)。</p>	<p>ガイド事業者、地域づくり委員会(自然活用部会、景観整備・エコ部会)、雲仙観光協会、雲仙お山の情報館</p> <p>九州地方環境事務所</p> <p>(既存施設:長崎県(自然部局))</p>	<p>アクティビティーの開発、実施は、すぐに着手し、5～10年以内に、絹笠山の利用者を、2000人規模から6000人規模にする。</p>
山の魅力向上	<p>●普賢岳新規ルートの整備</p>	九州地方環境事務所	1年以内実施する。
	<p><再掲>仁田峠のパーク&ライドの実施</p> <p>●関係機関と調整をしつつ、仁田峠のパーク&ライドについて、実証実験を重ねながら、実施方法の改良を行い、本格実施を実現する。</p> <p>●地権者や関係機関との調整をしつつ、パーク&ライド本格導入に向けた大型駐車場を整備する。</p> <p>候補地:パークホテル、高原ホテル、県営バス跡地、仁田峠入口空き地等</p> <p>●乗り換えシャトルバスのエコ化や、エコステーションの検討も行う。</p>	仁田峠パーク&ライド実証実験実行委員会、雲仙市、九州地方環境事務所	5年以内にパーク&ライドの本格実施を実現し、10年以内に、大型駐車場の整備を実現する。
	<p>●冬の霧氷の時期に、仁田峠にスミズにアガれるように、関係機関との調整をしつつ、取り組みを行う。</p>	雲仙観光協会、雲仙市、雲仙ロープウェイ	3年以内実現する。
	<p>●山道具の貸出:雲仙に、登山用品のレンタルや購入できる場所を設置する。行動食等の山用品の消耗品も購入できるようにする。</p>	雲仙観光協会、雲仙お山の情報館、地域づくり委員会(自然活用部会)	5年以内実現する。
	<p>●山のシンポジウムの実施:「雲仙といえば山」という雲仙の山のイメージを訴求するため、耳目が集まり、訴求力の高いシンポジウムを実施する。</p>	雲仙観光協会、雲仙お山の情報館、地域づくり委員会(自然活用部会)	5～10年以内実施する。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
山の魅力を活 用したアク ティビティ の充実	<p>●山のモデルコースづくり: 高密度に整備された既存の登山道や園路を活用した、お勧めビュースポットの選定や、多様なお勧めモデルコースをつくる。</p> <p>例・趣味・気分・時間にあわせた雲仙 77 コースなどを設定し、消費カロリー、コース毎の見どころ・景色の選定等を行い、プロデュースする。また、全制覇すると特典があるなど、滞在やリピートにつなげる工夫も行う。</p> <p>●地権者や関係機関との調整をしつつ、可能な範囲で、モデルコースやお勧めビュースポットの魅力を向上させる。</p> <p>例・解説板やベンチの設置、清掃や草刈り等の定期的な維持管理等、地元で出来る範囲のことを想定</p>	ガイド事業者、地域づくり委員会(自然活用部会、景観整備・エコ部会)、雲仙観光協会、雲仙お山の情報館	7年以内に、ビュースポットを20カ所、モデルコースを10コースづくり、雲仙全体の登山者数を3万人代から5万人代に増やす。
	<p>●雲仙の涼しさの活用: 雲仙の涼しさならではのアクティビティを充実させる。</p> <p>例・夕涼みトレッキング、白雲の池で涼しいカヌー体験、...</p>	雲仙観光協会、雲仙旅館ホテル組合	10年以内に夏休みの雲仙としての入り込み数を5割増にする。
	<p>●雲仙の紅葉の活用: 雲仙の紅葉シーズンならではのアクティビティを充実させる。</p> <p>例・もみじウォーキング、カヌーで行く水の上から見る紅葉ツアー、...</p>	雲仙観光協会、雲仙旅館ホテル組合	10年以内に紅葉の入り込みトップシーズンを10月末～11月中旬までの3週間から、10～11月の2ヶ月にする。
	<p>●雲仙の霧氷の活用: 霧氷をみるためのコースづくりやルートの確保を行う。</p>	雲仙観光協会、雲仙お山の情報館、ガイド事業者	10年以内に実現する。
	<p>●雲仙の霧の活用: 雲仙の霧ならではのアクティビティを充実させる。</p> <p>例・ミスト効果アクティビティ、霧の濃さに応じた霧の日割り、霧の夜の照明、霧のパワースポット、霧風呂、霧の時にちょうど見頃を迎えるヤマボウシやオオヤマレンゲのクローズアップ</p>	雲仙観光協会、雲仙旅館ホテル組合	10～15年以内に6～7月の霧のシーズンの雲仙としての入り込み数を2割増にする。
	<p>●雲仙の野鳥の活用: 夏鳥の繁殖地であり、四季を通して観察に適している雲仙の野鳥を活かし、観察会やアクティビティやイベントを充実させる。</p> <p>例・温泉街での野鳥の好む郷土種の植樹やバードバスの設置、早朝野鳥観察会、森の中の巣箱かけ体験、...</p>		10～15年以内に具体化し、実現する。
	<p>●雲仙の花の活用: 雲仙の魅力のひとつであり、人気の高い山の花々を活用したアクティビティを充実させる。</p> <p>例・花暦(アオモジ・クロモジ→サクラ→ツツジ→シロダダン→ヤマボウシ)や、花のベストな観察場所案内マップづくりを行い、花の山歩きをプロデュースする。</p> <p>・地権者や関係機関との調整をしつつ、吹越などにヤマボウシの観察場所の確保を行うなど、花の見せ方をブラッシュアップする。</p>	雲仙お山の情報館、雲仙観光協会、地域づくり委員会(自然活用部会)	7年以内に雲仙=花の山のイメージを訴求させる。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
	<p>●雲仙の星の活用: 雲仙の夜の最大の魅力である星空をさらに活用したアクティビティーを充実させ、雲仙を星のメッカとする。</p> <p>例・星に詳しい人を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星のプログラムを地域全体(観光協会、旅館ホテル、ビジターセンター等)で、年中実施する ・ただの観察会だけでなく、見る場所や見方にもこだわり、雲仙ならではの演出をし、星空を楽しんでもらう(例: 仁田峠での星空観察) ・日本で唯一の天体望遠鏡のある諏訪の池ビジターセンターを活用したアクティビティーを積極的につくり、活用する 等 	雲仙観光協会、雲仙諏訪の池ビジターセンター、地域づくり委員会(自然活用部会)	10年以内に雲仙を星空のメッカにする。
自然を活かした環境学習やイベント、修学旅行への活用	<p><再掲></p> <p>●子ども向けの体験プログラムや、環境教育教材づくりを行い、それらを、アクティビティーやイベント、修学旅行・研修旅行へ活用する。</p>	各ビジターセンター、PTA、教育機関、雲仙観光協会、雲仙旅館ホテル組合	10年以内に、環境学習修学旅行を確立する。
	<p>●自然や街の魅力を活用したイベントを開発し、定期的を実施する。</p> <p>例・湯たつとウォーク、トレッキングイベント、…</p>	雲仙青年観光会、雲仙観光協会、雲仙旅館ホテル組合、雲仙商店協同組合、飲食店組合、地域づくり委員会(自然活用・まち歩き部会)	すぐにでも着手し、5年以内に定期的に実施できるようなイベントを実施・定着する。
放牧風景の復活・活用	<p>●かつて牧歌的風景が広がっていた雲仙の魅力を今に復活し、新たな魅力としてよみがえらせるため、放牧風景の復活と活用を行う。</p> <p>例・ゴルフ場での放牧による草刈り管理風景の復活(日本最古のパブリックコースで、日本でここでしか見ることの出来ない放牧風景をみながらのゴルフ。本場イギリスのゴルフの発祥を思い起こさせるコースとして売り出す)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放牧を活かしたアクティビティーの開発(毛刈り、編み物や商品づくり(乳製品、ニット製品、食肉)) <p>●<再掲> 牧羊による放牧・草原景観の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牧羊による放牧・草原景観の維持を図りながら、将来的に、毛や食肉、加工品の販売などにより収入を得て、放牧が維持できるよう循環型システムを構築する。 ・また、ヒツジの放牧によるミヤマキリシマ群落の保全・再生にもつなげ、将来にわたり、安定的に雲仙の景観を維持する。 	ゴルフ場地主組合、雲仙観光協会、地域づくり委員会(自然活用部会)	すぐにでも着手し、研究を重ね、5年以内で20～30頭が放牧され、10年以内に、循環軌道にのせることを目標とする。

【他にもこんな項目が…】

行動内容	実施主体	見通し
●島原半島と連携した島原半島湯めぐりを実施する。	地域づくり委員会(あち歩き部会、半島連携部会)	5年以内に取り組みを進める。
●地権者や関係機関との調整をしつつ、稚児落としの滝を復活する。 ・県道の廃道敷への駐車場整備、歩道補修、水量の確保等を行う。	雲仙観光協会、地域づくり委員会(自然活用部会)	5年以内に取り組みを進める。
●地権者や関係機関との調整をしつつ、一切経の滝プールを復活する。 ・一切経の滝プールを当時の姿へ再生(石垣の積み直し)する。 ・滝周辺やアクセス路の環境・景観維持活動を継続する。 ・水質浄化方法など一切経の滝プールの復活に向けた検討を行う。		5年以内に取り組みを進める。
●植物の有効活用(酵母、漢方など)を行う。 例・ラム酎の復活	各事業者、雲仙観光協会	5年以内で具体化し、10年以内で形が見えるよう取り組む。
●体験として魅力的で、訴求力の高いアクティビティーについて、地権者や関係機関との調整をしつつ、実施可能なエリアを良く吟味し、実施を検討し、実現する。 例・カヌー、カヤック、バンジージャンプ、パラグライダー、サイクリングロード、…	各事業者、雲仙観光協会	5年以内で具体化し、可能な範囲で実現する。
●最先端技術を活用し、映像や音を活用した魅力の向上を図る。 例・雲仙の鳥の鳴き声、地獄の音、木々の葉音、一切経の滝音、修行僧の声、海なりの音、イルカの鳴き声等を体感できる3D解読装置等	雲仙観光協会、雲仙お山の情報館、ガイド事業者	25年で可能な範囲のことに実施する。

4-2 雲仙地域内の利用拠点の機能強化と連携強化

雲仙地域内の各利用拠点は、周辺地域との連携を強化することで機能強化を図り、交流、体験、学習の場となる。また、国立公園外も含めた利用拠点間で、相互に情報を共有し、他の利用拠点の情報も提供できるようにする。

このことにより、雲仙地域内の利用拠点が、「自然と人、人と人、地域と地域をつなぐ拠点」となり、雲仙地域だけでなく島原半島全体の周遊や滞在を促す。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
各利用拠点の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の人や来訪者に、より魅力ある情報や交流・体験プログラム等を提供できるよう、それぞれの立地特性を活かした機能強化を図る。 ●日々の定時ガイドや、出張講座など、できることを検討し、実施する。 ●研修会等により、スタッフのレベルアップを図る。 ●パークボランティアや種々のガイド等と連携・協働して、ボランティアスタッフ等の配置を検討し、スタッフの充実を図る。 ●日常業務での手作り展示等の工夫を行いながら、必要に応じて展示等のリニューアル整備を検討する。 	九州地方環境事務所、長崎県(自然部局)、雲仙市、島原市、南島原市、各利用拠点管理者	機能強化や周辺地域との連携強化は、日々の業務としてすぐに着手し、5年以内に周辺地域との連携したプログラム等を実施できるよう取り組みを進める。
各利用拠点と周辺地域の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ●周辺地域の支所や観光協会等と連携し、相互に、パンフレットや各種情報を共有する。 ●周辺地域の教育委員会等と連携し、自然体験・学習プログラムの開発や実施を行い、地域の子どもたちや親子の利用を促進する。 ●各利用拠点内だけでなく、その周辺地域の資源活用や、周辺地域の住民や事業者の方々と連携した体験プログラム等の展開により、各利用拠点をより魅力的なものにするとともに、周辺地域の地域振興にも寄与する。 ●周辺地域資源の保全や再生にも役立つプログラムを積極的に展開する他、各利用拠点スタッフの専門知識等を活かし、周辺地域の住民や事業者と協働して資源の保全再生活動を行う。 ●周辺地域の住民や事業者にも、利用拠点を活用してもらうようなイベントや、協力してもらえるような企画展示等を検討し、実施する。 		5～10年以内に、ボランティアスタッフ等の配置によるソフト機能の充実を果たせるよう取り組みを進める。必要に応じて、各施設のタイミングで展示等のリニューアル整備を実施する。目標として、10年以内に、利用者数を現在の2割増にする。
各利用拠点の役割分担と連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ●各利用拠点間の連絡会議等を開催し、それぞれの特徴を活かした役割分担の明確化を図り、それを踏まえた連携強化を図る。 ●各利用拠点の合同研修会等により、スタッフ同士の連携強化を図る。 ●相互に情報を共有し、他の利用拠点の情報も提供することで、雲仙地域だけではなく島原半島全体の周遊や滞在を促す。 ●利用拠点ごとの特徴を活かしたプログラム等を組み合わせ、島原半島全体で交流、体験、学習の場となる。 <p>例・島原半島全体でストーリー性のある合同プログラムの展開、リレー式によるエコツアーの実施、年ごとの統一テーマを掲げたエコツアーの実施、スタンプラリー、合同コンテストの企画 等</p> <p>※国立公園外の利用拠点や観光協会等と連携や役割分担も検討し実施する。</p> <p>例・お山の情報館と雲仙観光協会と街の駅の役割分担や連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成新山ネイチャーセンターと雲仙岳災害記念館、土石流被災家屋保存公園、砂防みらい館の役割分担や連携 ・お山の情報館と雲仙市観光協議会との連携、諏訪ノ池ビジターセンターと南島原ひまわり観光協会との連携 等 	九州地方環境事務所、長崎県(自然部局)、雲仙市、島原市、南島原市、各利用拠点管理者	2年以内に役割分担や連携強化策を整理し、合同研修会と連絡会議を年1回は開催することとし、5年以内に島原半島全体で連携したプログラムの実施を行えるよう取り組みを進める。
利用拠点間の回遊性を高める経路の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●利用拠点間の移動経路についても、グリーンロード等のシーニックルート等の利用を促すような情報提供を行うことにより、島原半島を移動する価値を高められるような連携を図り、利用者の満足感を高める工夫を行う。 <p>●<再掲>島原半島アクセス網の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、シーニックポイント、写真撮影ポイントやシーニックルートのサイン整備等を検討する。 	各利用拠点管理者	日々の業務としてすぐに着手する。
		雲仙市、島原市、南島原市、九州地方環境事務所	10～15年以内にサインの充実に取り組む。

＜利用拠点の機能強化と役割分担と周辺地域の主な対象のイメージ＞ ※実際は、今後の連絡会議等で検討することとしている

利用拠点名	利用施設名	機能と役割分担	周辺地域の主な対象
雲仙温泉集 団施設地区	雲仙お山の情報館	<ul style="list-style-type: none"> ●島原半島全体の情報収集・共有・発信拠点として機能強化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・全国の情報の収集や、国内外に向けた情報発信を行う。 ・温泉街の旅館ホテルや商店街との連携事業などを積極的に展開する。 ・雲仙地獄、白雲の池、絹笠山等周辺資源と連携したプログラムづくりを行う。 ●お山の情報館と別館の機能分担と有効活用を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・お山の情報館別館(旧ビジターセンター)を積極的に活用する。 例・島原半島全体のインフォメーション機能、雲仙温泉のまちづくり機能 <ul style="list-style-type: none"> ・各種アクティビティーやガイドツアーのレクチャールーム機能 ・各種企画展示、イベント機能 	＜情報収集、連携先＞ 雲仙温泉、雲仙地獄 雲仙温泉周辺の山々(絹笠山・矢岳・宝原園地・池ノ原園地・白雲の池) 普賢岳周辺の山々 ＜各種連携窓口担当＞ 雲仙市の北側
	白雲ノ池野営場	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙温泉街の旅館ホテル・商店街と連携した日帰りキャンプ、園地的利用をメイン機能とする。 	
諏訪ノ池集 団施設地区	諏訪ノ池ビジター センター	<ul style="list-style-type: none"> ●周辺の農山村(棚田、段々畑、ため池)や二次的自然(里地里山)を活用した身近な自然とのふれあい・体験活動、農業体験の拠点として機能強化を図る。 ●天文台を十分に活用したスターウォッチング観光・学習拠点としての機能強化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・休暇村雲仙やキャンプ場と連携したプログラムづくりを行う。 	＜情報収集、連携先＞ 諏訪の池周辺、周辺の農業(歳時記) ＜各種連携窓口担当＞ 島原半島の南部(南串山、南島原市)
	諏訪ノ池野営場		
仁田峠	仁田峠インフォメーションセンター	<ul style="list-style-type: none"> ●登山基地として機能強化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・普賢岳周辺の山々の自然情報や安全情報の提供機能の充実を図る。 ・入山前のレクチャー機能の充実を図る。 	普賢岳周辺の山々
垂木台地	平成新山ネイチャーセンター	<ul style="list-style-type: none"> ●国立公園とジオパークの連携強化拠点として機能強化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・火砕流跡地の植生回復状況の観測を通し、植生回復や植生遷移モニタリングの活動拠点として機能強化を図る。 ・平成新山や火砕流跡地の植生回復状況を目の当たりにできる園内の定時ガイドや、眉山や焼山などの周辺の火山と植生の関係性が分かりやすいフィールドを積極的に活用した周辺ガイド機能の強化を行い、火山と植生の関係性をわかりやすく解説する機能を強化する。 	＜情報収集、連携先＞ ジオパーク、垂木台地、眉山、焼山、島原市内ジオサイト(湧水、武家屋敷、白土湖等) ＜各種連携窓口担当＞ 島原市全域
田代原	田代原トレイルセンター 田代原野営場	<ul style="list-style-type: none"> ●田代原周辺の牧場と連携し、牧場を利活用した酪農体験や、乳製品づくり体験、牧場風景の維持や、放牧によるミヤマキリシマの保全再生活動、並びに周辺の山(九千部岳、吾妻岳、鳥甲山)を活用した観察会などの拠点として機能強化を図ることを検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場や遊々の森協定(林野庁、雲仙市、島原雲仙農業協同組合、NPO法人奥雲仙の自然を守る会)との連携したプログラムづくりを検討する。 	＜情報収集、連携先＞ 周辺の山(九千部岳、吾妻岳、鳥甲山)、周辺の牧場(歳時記) ＜各種連携窓口担当＞ 島原半島の北部(国見、瑞穂、吾妻、愛野、千々石、有明)
論所原	エコパーク論所原 論所原野営場	<ul style="list-style-type: none"> ●BDF 施設などを活用したバイオ燃料やエコロジーといった環境教育や、農業体験、スローフードなどを組み合わせた、体験拠点として機能強化を図る <ul style="list-style-type: none"> ・オートキャンプ場やケビンなども活用したプログラムづくりを行う。 ・雲仙温泉と諏訪の池の中間地点の利を活かし、それら施設との連携を図る。 	＜情報収集、連携先＞ 高岩山、雲仙温泉、諏訪ノ池 ＜各種連携窓口担当＞ 南島原市全域

4-3 歩きたくなる街づくり

湯めぐりや、各商店・飲食店の魅力向上、温泉街としての心地よい空間の磨き上げ、地域全体でのおもてなし力の向上など、歩きたくなる街づくりを行う。

このことにより、雲仙での滞在を満喫するための街の魅力向上（ブランディング）を図り、山の上にある温泉街ならではの長期滞在型、国際観光地「ゆっくり癒される雲の上のトレッキングスパリゾート」を実現する。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
歩いても 楽しい しかけ づくり 街の魅力 を活用し た楽しみ づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●湯めぐりや、歴史あるホテル等の見どころを廻るホテル・商店めぐりなど、街を巡り歩いてもらうきっかけとなる仕組みづくりを行う。 ●雲仙地域内のコースづくり、魅力づくりを行う。 例・雲仙の歴史を語る満明寺、ミニ八十八箇所めぐり、温泉神社、カトリック教会を活用したモデルコースづくりや、パンフレット作成を行う。 ・温泉神社のお上り・お下りなど、地域の伝統的祭りの掘り起こしや、盛り上げを行う。 ・地権者や関係機関との調整をしつつ、句碑の設置等、隠れた魅力の発信を行う。 	雲仙旅館ホテル組合、雲仙観光協会、雲仙湯のまち通りを考える会	「湯めぐり」は、2年以内にシステムを確立し、5年以内に年間5万人の利用を目指す。その他も、7年以内の実現を目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙らしい文化・芸術の活動拠点を創出する。 例・既存施設や空家を利用した活動拠点づくりを行う。 ・小さな映画館、図書館、映画学校など文化・芸術関連施設を誘致する。 ・海と緑の映画祭などの文化イベントを開催（誘致）する。 ・ものづくりの人やアーティストの発掘、誘致・定住の促進を行う。 ・ミュージアム SHOP を設置する。 ・文化・芸術活動促進に対する地元の人々の理解やバックアップの促進を図る。 ・雲仙の各旅館・商店・住民等が所有する雲仙の伝統や歴史に裏打ちされた宝物や歴史的資料について、価値の分からないまま失われていくものや、現在は公開されずに眠っているものを、一時的でもあずかり公開する受け皿を設置する。 	雲仙観光協会、雲仙商店協同組合、雲仙湯のまち通りを考える会、住民、地域づくり委員会（まち歩き部会）	10年以内に文化・芸術の魅力を感じる雲仙を実現する。
	<p><再掲></p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然や街の魅力を活用したイベントを開発し、定期的実施する。 例・湯たつとウォーク、トレッキングイベント、… 	雲仙青年観光会、雲仙観光協会、雲仙旅館ホテル組合、雲仙商店協同組合、飲食店組合、地域づくり委員会（自然活用・まち歩き部会）	すぐにでも着手し、5年以内に定期的に実施できるようなイベントを実施・定着する。
雲仙・島原半島らしさに裏打ちされた「ほんもの」の魅力ある温泉街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙温泉街で島原半島の魅力を感じることができるよう、島原半島の情報や産品を提供できる店舗を増やすとともに、島原半島らしさに裏打ちされた「ほんもの」が集結する軽トラ朝市等のイベントを増やしていく。また、雲仙温泉街で提供する島原半島の物産や情報を語る店主やスタッフの育成を行い、雲仙温泉街の「島原半島ショーウィンドウ化」を進める。 ●個性的な店舗を増やし、集客を実現するため、空き店舗や、湯川整備等を活用したチャレンジショップの出店誘致や木陰のオープンカフェづくりを促進する。 ●古湯地区ファサード整備との協働による魅力的商業空間づくりを行う。 ●温泉街の道路や歩道沿線について、各自の敷地内で、住民の1人1人による郷土種の草花・樹木を植える活動等により、明るいみどりの並木道等、良好な沿道環境を創出する（森学校、雲仙小学校桜プロジェクト、百年の森づくり、温泉岳の会等との連携・協働）。 	各事業者（商店、飲食店）、雲仙商店協同組合、飲食店組合、雲仙湯のまち通りを考える会	各商店で、7年以内に5分、12年以内に10分過ごせ、商店街全体で2時間過ごせるようにする。
		住民、事業者、雲仙観光協会、雲仙商店協同組合、地域づくり委員会（まち歩き部会）	5年以内に雲仙温泉街に住民と同じ数の郷土木を植樹する。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
	<p>●<再掲> 地域特性を活かした地産地消の促進</p> <p>雲仙の誇るスローフードなど、地域で生み出される食材や産品を取り入れるなど、地域特性を活かした店づくりや宿づくり、おみやげ、飲食メニュー、宿泊プラン、サービス、旅行商品づくりなどを行う。</p> <p>例・農家や漁師と顔が見える関係づくりを行い、それに合わせたメニューづくり等を行い、安全・安心の島原半島産の食材を提供できる飲食店になる。</p>	<p>雲仙観光協会 雲仙旅館ホテル組合 雲仙商店協同組合 雲仙旅館ホテル協同組合 各事業者、住民 地域づくり委員会(半島連携部会)</p>	<p>10年以内に、地産地消を売りにした事業者が2~3件出て来るなど、地産地消が進んだと実感できることを目指す。</p>
	<p>●魅力的な温泉街の街並み、空間づくりを行う</p> <p>例・電線の地中化を実現できるよう働きかける。</p> <p>・幹線道路については、車道や歩道の舗装の工夫(石畳、カラー舗装)や、制限速度の低下措置による柔らかな印象になるよう働きかける。</p> <p>・雲仙温泉街の入口(札ノ原、古湯、別所)の景観整備</p> <p>●廃屋の撤去</p>	<p>雲仙観光協会、雲仙市、地域づくり委員会(景観整備・エコ部会)</p>	<p>15年以内に実現できるよう関係機関に働きかける。</p>
<p><再掲> おもてなし力の向上</p>	<p>●地域全員が、行き交う観光客に笑顔や挨拶を行うなど、雲仙全体で自然なおもてなし力が向上するよう取り組む。</p> <p>●住民の一人一人が身近な自然や歴史や温泉など何かしらの案内・自慢が出来るようになり、観光客に気軽に、一言ガイドが出来るように、「住民にこにこガイド」の育成を行う。</p> <p>●宿泊施設、小売店、飲食店合同による「おもてなしセミナー」(雲仙天草観光圏整備計画より)を継続する。</p>	<p>住民、各事業者(商店、飲食店)、雲仙商店協同組合、飲食店組合、雲仙湯のまち通りを考える会、雲仙お山の情報館、地域づくり委員会(まち歩き部会)</p>	<p>2年以内に、「住民にこにこガイド」の育成に着手し、5年以内に「住民にこにこガイド」が定着し、温泉街の雰囲気の変化を感じられるよう、取り組みを進める。</p>
<p>温泉街中心地リフレッシュ整備</p>	<p>●湯川整備区域周辺の空きスペースの活用をするため、必要な施設整備の検討を行い、湯川の整備を活かした、周辺のやすらぎ空間や商業空間(チャレンジショップなど)として整備する。</p> <p>●けやき広場、児童遊園、満明寺裏の遊歩道の再整備や、通景(樹木)伐採、また、つい足を踏み入れたいなる満明寺参道の演出(入口の演出や木の伐採等)等を行う。</p> <p>●雲仙温泉街のサインのイメージ統一を行う。</p> <p>●観光客からも、地元からもニーズの高い、子供の遊べる場所づくりを検討する。</p>	<p>雲仙商店協同組合、雲仙湯のまち通り考える会、雲仙市</p> <p>九州地方環境事務所、雲仙市、長崎県(自然部局)、雲仙観光協会</p>	<p>5年以内に実現。土地の調整が必要な案件については、10年以内の実現を目指す。</p>
<p><再掲> ツアーデスクの設置、一元的情報発信</p>	<p>●雲仙温泉内に、様々なプログラムやアクティビティー、ガイドを紹介するツアーデスクの設置を行い、利用者に対して一元的情報発信を行う。</p>	<p>雲仙観光協会 地域づくり委員会(半島連携部会)</p>	<p>すぐに着手し、5年以内に、ツアーデスクを設置する。</p>

4-4 長期滞在に対応できる宿泊環境づくり

4-1「自然を楽しむ新たな仕組み・仕掛けづくり」や4-2「雲仙地域内の利用拠点の機能強化と連携強化」、4-3「歩きくなる街づくり」によって、観光客には「もう半日、もう一日滞在したい」と思わせる環境が整うことになる。この環境を活かし「さらにもう1泊、もう2泊したい」と思わせる、宿泊環境を整備する。

このことにより、「ゆっくり癒される雲の上のトレッキングスパリゾート」を実現する。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
宿泊施設におけるコンシェルジュ機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●観光協会や各ビジターセンター、ツアーデスクとの連携により、宿泊施設を各施設のサテライトと位置づけ、宿泊施設のスタッフにより、周辺情報案内や自然の楽しみ方、街歩きの楽しみ方、島原半島の楽しみ方等の情報を、積極的に提供する。 ●<再掲>雲仙に誇りをもち、訪れる人に伝えられる観光地づくり <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設のスタッフ向けの地域講座(雲仙学)の開催 ・雲仙の人たちの気持ちや誇りが詰まった雲仙人ガイドブックの活用等 	各事業者、雲仙旅館ホテル組合、雲仙観光協会、雲仙お山の情報館、地域づくり委員会(総務部会)	コンシェルジュ機能の強化から、すぐにでも着手し、自然を楽しむ新たな仕組み・仕掛けや歩きくなる街づくり、各サービスの強化
連泊者向けサービスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ●4-1による自然の魅力や、自然を楽しむアクティビティと連動した連泊者向けサービスを充実する。 例・ホテルでのレクチャー、登山口やアクティビティへの送迎、等 ●4-2による飲食店の魅力向上や充実と連動した連泊者向けサービスを充実する。 例・泊食分離、一杯飲み券付きプラン、複数施設で食事を選択できる仕組み ●地域内外の宿泊施設と連携した、転泊プランの設定を行う。 	各事業者、雲仙旅館ホテル組合	の進捗にあわせて、5年で体制づくりを進め、10年で連泊数を地域全体で年間のべ1万泊を目指す。
長期滞在向けプランの強化	<ul style="list-style-type: none"> ●アクティビティやまちあるき、島原半島の魅力との連携、連泊者向けサービスの強化等の成果の活用による長期滞在向けプランを造成し、提供する施設を増やす。 例・泊食分離による低価格連泊プラン、島原半島周遊転泊プラン、天草・島原・雲仙転泊プラン、温泉療養連泊プラン、オフシーズン格安連泊プランなど 	各事業者、雲仙旅館ホテル組合	

基本戦略5 持続可能な推進体制の構築

5-1 推進組織づくり・継続・発展

行動計画実現のための各種調整や推進の支援、プランの進捗状況評価や見直し、関係者との意思疎通や情報共有、各活動の課題解決のため研修の実施等、必要な機能を備えた持続可能な推進組織を設置する。

また、取り組みの効率性、効果性、持続可能性を高めるため、専門知識や先進性、研究の継続性、若い学生アイデアとマンパワーを備えた高等教育機関（大学、専門学校、高校等）と積極的に連携する。

このことにより、雲仙プラン100の各行動計画を実現し、今後の雲仙地域全体の活動レベルの底上げを図る。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
推進組織の構築・運営	<ul style="list-style-type: none"> ●行動計画実現のための各種支援、調整や、プラン全体の PDCA サイクルの管理を行うための推進組織を設置、継続運営する。 ●そのための資金調達のみづくりを行い、継続する。 ●現在のワーキングを継続できるような、まちづくりの仲間が集まる場づくりを行い、事業者や住民、また、若い従業員など、誰もがまちづくりに参加できるような仕組みづくりを行う。 ●行動計画で求められている活動の実践や、コーディネートを行う。 	地域づくり委員会（総務部会）、雲仙観光協会	12月までに継続組織を立ち上げ、25年後も活動を継続させる。
地域内の情報共有（収集・発信）、	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙や島原半島の人たちと、常に連絡を取り合い、情報の収集、共有のための雲仙大連絡網、島原半島大連絡網を構築する。 ●雲仙プラン100をはじめ、地域の日々の具体的活動や取り組み、イベント等について、地域内への情報発信等を通し、住民の理解を促進する。 例・ひまわりテレビ、SNS (Facebook 等) の活用、雲仙プラン100の広報誌「雲仙ING」の定期的発行、等) 		1年以内に形にし、発展しながら継続する。
知恵とアイデアの共有	<ul style="list-style-type: none"> ●地域内の老若男女、様々な立場の人たちと、自由な意見交換会を年1～2回程度実施し、様々な知恵やアイデアの共有を図り、各行動計画の具体化や協働・協力を促進し、年次計画の立案等に活かす他、必要に応じて、プラン自体の見直し等に反映する。 		1年目から、毎年実施する。
活動報告会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙プラン100の活動報告会を年1回程度開催し、行政関係者、島原半島関係者をはじめ外部の専門家もまじえ、地域内外に対して、活動進捗状況、成果の報告を行い、評価やアドバイスや支援を受け、継続的活動につなげる。 		1年目から、毎年実施する。
達成状況や成果評価のためのアンケート調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●日頃より、雲仙プラン100の各行動計画の達成状況やその成果を評価するために、利用者や住民、関係事業者、エージェン等々にアンケートを実施し、その結果を踏まえて、各行動計画の修正や見直しを行う。 		1年目から、随時実施する。
5年ごとの雲仙プラン100の行動計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙プラン100の理念や将来ビジョンの下、5年毎に各行動計画の進捗状況や成果の確認、達成目標に対する評価を行い、その時の地域の状況や社会経済、市場動向を見極めながら、雲仙プラン100の行動計画の点検を行い、次の5～10年の行動計画並びに達成目標を検討、見直しを行う。 		5年目から、5年毎に実施する。
高等教育機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●将来にわたり、既存の大学や研究室等とのネットワークを維持・活用し、また、新たな高等教育機関との連携構築を促進する。 ●地域は、高等教育機関へ研究・学習フィールドを提供し、地域でも若者の教育の一端を担う。高等教育機関は、地域へ専門知識や大学生のマンパワーを提供する(オープンユニバーシティ構想)。 	地域づくり委員会（総務部会）、雲仙市、島原市、南島原市	7年以内に形にし、発展しながら継続する。

5-2 雲仙人の育成（人材育成）

地域住民や子どもたち、事業者・スタッフ等に対して、おもてなしの向上や、地元を知る機会を提供すること等を通じて、人材育成を行う。

このことにより、おもてなし向上と、雲仙に関わる人が雲仙を好きになり、訪れる人にその良さを伝えられるようになる等、観光地としての底上げが図られ、また様々な取り組みへの理解や参加が促進されることで、次世代においても、雲仙プラン100の理念が引き継がれ、アクションが継続されるようになる。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
<再掲> おもてなし力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●地域全員が、行き交う観光客に笑顔や挨拶を行うなど、雲仙全体で自然なおもてなし力が向上するよう取り組む。 ●住民の一人一人が身近な自然や歴史や温泉など何かしらの案内・自慢が出来るようになり、観光客に気軽に、一言ガイドが出来るように、「住民にここにガイド」の育成を行う。 ●宿泊施設、小売店、飲食店合同による「おもてなしセミナー」(雲仙天草観光圏整備計画より)を継続する。 	住民、各事業者(商店、飲食店)、雲仙商店協同組合、飲食店組合、雲仙湯のまち通りを考える会、雲仙お山の情報館、地域づくり委員会(まち歩き部会)	2年以内に、「住民にここにガイド」の育成に着手し、5年以内に「住民にここにガイド」が定着し、温泉街の雰囲気の変化を感じられるよう、取り組みを進める。
<再掲> 雲仙に誇りをもち、訪れる人に伝えられる観光地づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●住民、スタッフ、子ども向け等の、地域講座(雲仙学)を開催する。 ・住んで良かった、これからも住もうと思える、住民向け講座の開催。 例:住民向け雲仙検定(住民1000人が何かの〇〇仙人を目指す!)を実施 →住民にここにガイドや山岳ガイド育成などへのきっかけにする。 ・働けて良かった、これからも働きたいと思える、スタッフ向け講座を開催する。 例:はじめての雲仙さがし ・産まれて良かった、帰ってこようと思える、子ども向け講座やイベントを開催する。 例:<再掲>子ども向けあるもの探しや雲仙や島原半島を知る教材づくりを行い、それらをアクティビティーやイベントへ活用する。 / 森学校 ●雲仙の人たちの気持ち、誇りが詰まった雲仙人ガイドブックを発行する。 ●雲仙で働きたくなる環境づくりを行う。 例:ステップアップ研修の定期開催、女将によるおもてなし講座 ・雲仙外から来て、雲仙で働く人たちが、雲仙を好きになって、住みやすくなるよう、交流会や、地域サークル、地域運動会、住民文化祭などを開催する。 例:ベッドメイキング選手権、配膳選手権、ボイラーマン選手権、湯守選手権、山選手権、… →おいおい全国、世界大会へ! 	雲仙観光協会 雲仙お山の情報館 地域づくり委員会(総務部会)	取り組めるものから着手する。 住民:5年以内に「住民にここにガイド」が定着する。 スタッフ:5年以内に、3年以上定着するスタッフを3割以上にする。 10年以内に、雲仙で働きたいという人を増やす。 子ども:5年以内に子どもがもっと雲仙の自然の中で遊ぶようになる。
研修・勉強会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり、マーケティング、ブランディング、エコツーリズム、商品企画等、様々な分野の講師を招き、定期的に勉強会を開催する。また、様々な取り組みの先進地・先進事例の研修を定期的に企画し、実施する。 ●研修してきた内容を、関係者と共有する。 ●あるもの探しやシンポジウムなど、様々な交流促進のきっかけづくりイベントを定期的に実施する。 	雲仙観光協会、雲仙旅館ホテル組合、雲仙商店協同組合、飲食店組合、地域づくり委員会(総務部会)	1年目から、毎年実施する。継続する。

【他にもこんな項目が…】

行動内容	実施主体	見通し
<ul style="list-style-type: none"> ●島原半島外の地域や組織との連携を図る。 (長崎、熊本、阿蘇、湯布院、別府、平戸、佐世保、天草) 例・雲仙天草観光圏、地域間相互PR、転泊・連泊プランづくり、相互アクセス向上 ※上海や東アジアとの連携も視察に入れて検討する。 	雲仙観光協会 地域づくり委員会(総務部会)、長崎県(観光部局)、雲仙市、島原市、南島原市、(社)島原半島観光連盟	5年以内に各連携を深め、10年以内に、強固なものとする。
<ul style="list-style-type: none"> ●20年後の雲仙・島原半島をテーマにした懸賞論文を一般公募する。 ・雲仙プラン100に対する県民内外の理解と協力、新生雲仙のイメージアップに役立てるため、中高生から一般まで幅広く公募する。 	地域づくり委員会(総務部会)	5年以内に実施する。

5-3 雲仙地域のマーケティングとブランディング強化と戦略的情報発信

島原半島が一体となったマーケティング、ブランディング、戦略的情報発信に積極的に協力しながら、その情報を雲仙地域にもフィードバックし、そのなかで雲仙地域にこそ担える役割を認識し、その上で、雲仙地域としてのマーケティングとブランディングを強化し、戦略的情報発信を行う。

これらのことにより、雲仙地域や雲仙プラン100の取り組みを、より効果的なものとする。

また、雲仙プラン100自体の評価や見直しを的確に行うためにも、マーケティングやブランディングの結果を常に分析しながら進める。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
雲仙地域のマーケティング強化	●<再掲>マーケティングについての勉強会を実施する。	雲仙観光協会、地域づくり委員会(総務部会)	1年目から、定期的実施する。
	<p><再掲>島原半島が一体となったマーケティング</p> <p>●島原半島が一体となって行う、マーケティング等の勉強会や、マーケティング調査等に、積極的に参加し、雲仙の情報については提供を行いながら、島原半島全体のマーケティング結果の共有を図る。</p> <p>例・島原半島共通のアンケート調査の実施協力や、雲仙で実施したアンケート結果の提供等。</p> <p>●島原半島が一体となって行うマーケティング戦略等について、積極的に協力・協働する。</p>	各事業者、雲仙観光協会、地域づくり委員会(総務部会)	島原半島のマーケティング関連の取り組みにあわせて実施
	<p><島原半島が一体となったマーケティングを踏まえながら></p> <p>●雲仙地域共通のアンケートを年間通じて実施し、定期的集計、分析する。</p> <p>●業界紙、SNS(Facebook等)を活用した各々でのリサーチ活動を実践する。</p> <p>●定期的に、雲仙マーケティング戦略会議を開催し、統一的なマーケティング戦略を決定する。</p> <p>●マーケティング戦略等にかかわる各種調査報告書の収集と分析を行い、一元的管理をする。</p>	各事業者、雲仙観光協会、地域づくり委員会(総務部会)	2年目から、定期的実施する。
雲仙地域のブランディング強化	●<再掲>ブランディングについての勉強会を実施する。	雲仙観光協会、地域づくり委員会(総務部会)	1年目から、定期的実施する。
	<p><再掲>島原半島が一体となったブランディング</p> <p>●島原半島が一体となって行うブランディング戦略等について、積極的に協力・協働する。</p> <p>●島原半島が一体となったブランディング戦略を踏まえ、雲仙地域においても、商品づくりや、情報発信の仕方、売り出し方をはじめ、本プランの各行動計画をどうアレンジしていくのか等、検討し、様々な取り組みに反映させる。</p>	各事業者、雲仙観光協会、地域づくり委員会(総務部会)	島原半島のマーケティング関連の取り組みにあわせて実施
	<p>●島原半島が一体となったマーケティング戦略やブランディング戦略を踏まえ、かつ雲仙に特徴的なものは、雲仙のマーケティング戦略も踏まえ、雲仙地域における、商品づくりや、情報発信の仕方、売り出し方をはじめ、本プランの各行動計画をどうアレンジしていくのか等、検討し、様々な取り組みに反映させる。</p> <p>●定期的な雲仙ブランディング戦略会議を開催する。</p>	各事業者、雲仙観光協会、地域づくり委員会(総務部会)	すぐに、今までのデータによるブランディングを行い、7年以内に、新たなマーケティングによる新たなブランディング戦略を構築する。

項目	行動内容	実施主体	達成目標
地域外への戦略的 情報発信・PR	<ul style="list-style-type: none"> ●マーケティング戦略やブランディング戦略を踏まえ、雲仙観光協会のホームページのリニューアルを行う。 ●雲仙の自然情報やイベント情報等をリアルタイムに情報発信する。 例・雲仙の情報を集めるネット上の窓口をつくり、雲仙関係者全体で日々のリアルタイム情報を集めアップする。 ・開花宣言(標準木で規定数咲けば開花！等、ルールを決め、マスコミに発信！ヤマザクラ、ミヤマキリシマ、ヤマボウシ、紅葉、霧氷…)、星空情報等 ●雲仙地域内の各種イベントも、漫然と実施するのではなく、情報発信のひとつと考え、訴求させたい情報やイメージにあわせて、戦略的にイベントの内容や時期を検討し実施する。 ●マスコミや情報発信媒体との良好な関係を構築する。 	雲仙観光協会 住民、各事業者、雲仙 観光青年会	1年以内に実施する。 5年以内に雲仙の情報が全国レベルで良く耳目にする と実感できることを目指す。
	<p><再掲> 島原半島が一体となった地域外への戦略的 情報発信・PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ●島原半島が一体となったマーケティング戦略・ブランディング戦略を踏まえた多様な手法による訴求力のある豊富な情報提供を実践する。 ●<再掲> 島原半島の各交通機関等と連携して、ホームページ上での、島原半島へのアクセス情報や公共交通機関の乗り継ぎ情報案内システムを構築し、発信を行う。また、スムーズな乗り継ぎ連絡のダイヤ調整等を働きかける。また、各観光拠点施設で乗り継ぎやアクセス情報のアナウンスを行うよう働きかける。 ●訴求力を高めるため、島原半島が一体となった紙媒体の見直しを行う。 例・島原半島のイメージカラーをつくり、パンフレットやチラシのカラーリングやデザインに統一性を持たす(海編、里編、山編、ジオ編等、シリーズ化する等) ●島原半島が一体となった各種イベントも、漫然と実施するのではなく、情報発信のひとつと考え、訴求させたい情報やイメージにあわせて、戦略的にイベントの内容や時期を検討し実施する。 ●最先端技術を駆使した映像や音情報の蓄積を行い、一元的管理を行い、活用、発信する。 	雲仙観光協会、各事業者	島原半島のマーケティング 関連の取り組みにあわせて 実施

6 雲仙プラン100の推進体制

「5 雲仙地域の将来ビジョンを実現するための行動計画」では、これまでの反省を踏まえ、具体的行動を推進できるよう具体的な行動内容と実施主体と達成目標を明らかにした行動計画を作成した。その上で、雲仙プラン100に掲げた基本理念と将来ビジョンを旗印に、各行動計画の実現に向けて推進していくための体制は以下のとおり。

地域が主導し、一部のステークホルダーだけでなく地域全体がかかわり、一人一人が自ら考え知恵を出し合い役割を果たしながら行動できる体制とするため、基本戦略1～5に基づき、各行動計画を進めるための中間支援組織として、(社)雲仙観光協会をはじめ雲仙の多くの組織、並びに、事業者や個人の有志により、「雲仙プラン100地域づくり委員会」を立ち上げ、その中に4つの部会を設置する。

「雲仙プラン100地域づくり委員会」は、各行動計画の「実施主体」や関係機関をはじめ、雲仙地域内の様々な組織や事業者や個人と連携・協働しながら、各行動計画の実現に向けた取り組みを、部会毎に推し進める。

基本戦略1については、島原半島が一体となって取り組むもののうち、特に島原半島内の交流や相互理解を促進するとともに、島原半島全体の交流人口を増やすために、率先して、雲仙地域が出来ることを中心に戦略を立てている。

そのため、基本戦略1にある行動計画については、まずは、下記【連携先】の既存の取り組みが主となることを想定し、その実現に向けて、雲仙地域が出来ることについて、協力・協働しながら取り組むこととする。その際、雲仙地域側としては、「雲仙プラン100地域づくり委員会 半島連携部会」が、中間支援機能を果たし、雲仙地域内の各行動計画の「実施主体」や関係機関との調整をはじめ、必要に応じて下記連携先との調整・ハブ機能を果たし、連携・協働しながら、出来ることを実践していくこととする。

【連携先】

- 島原半島ジオパーク推進連絡協議会、(社)島原半島観光連盟、NPO法人がまだすネット等、島原半島全体を視野に活動している組織。
- 島原半島内の各観光組織や、第一次から三次産業の幅広い組織や事業者。
- 雲仙市、島原市、南島原市、長崎県等の行政機関等。

なお、上記連携先と、どの行動計画について取り組みを進めていくのかは、添付資料「島原半島関係組織との連携項目の整理一覧」に整理している。

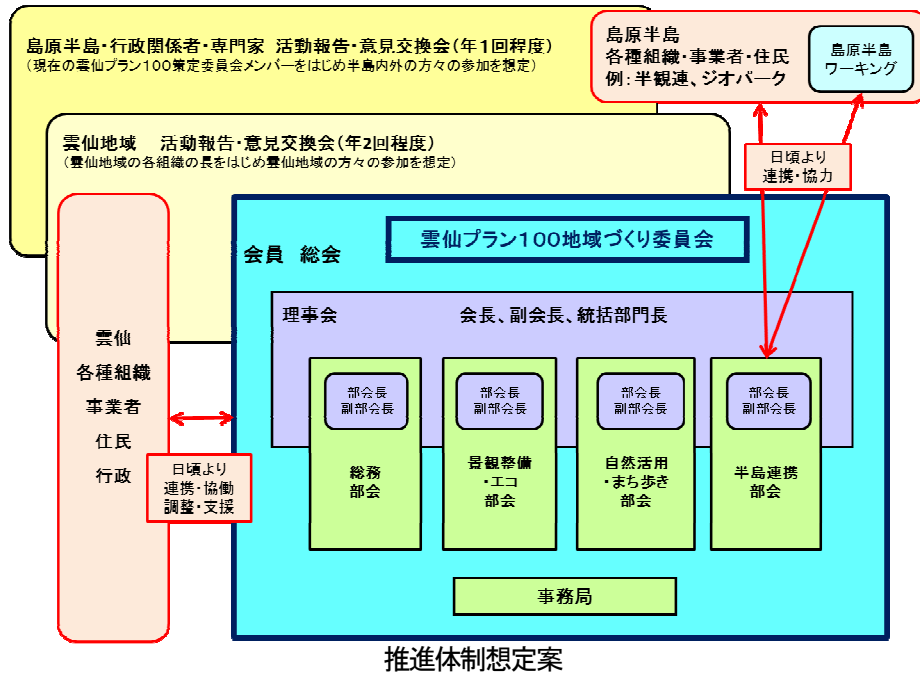
また、(社)島原半島観光連盟が、自然、歴史、温泉、食など、島原半島が有する自然と火山の恵みを最大限活用しながら、地域の魅力をトータルに売り込むための戦略として「島原半島『GAMADASU』プロジェクト」を立ち上げ、自らがコーディネーター役となり島原半島内の観光協会等とネットワーク化を図り実施体制の構築を進めることになった(平成23年～25年度事業)。このことから、「島原半島『GAMADASU』プロジェクト」の取り組みと、基本戦略1の行動計画とが重なる取り組みについては、(社)島原半島観光連盟の取り組みに雲仙地域が協力するかたちで進めることとする。また、「島原半島『GAMADASU』プロジェクト」の取り組みにはないが、基本戦略1の行動計画にあるものについては、「雲仙プラン100地域づくり委員会 半島連携部会」から島原半島関係者に働きかけ連携・協働して取り組むこととする。

次に、基本戦略2、3については、「雲仙プラン100地域づくり委員会 景観整備・エコ部会」が各行動計画の「実施主体」や関係機関との調整役となって取り組みを進める。

同じく、基本戦略4については「自然活用・まち歩き部会」、基本戦略5については「理事会」と「総務部会」が、それぞれ担当する。

なお、基本戦略2～5についても、各行動計画に応じて、上記【連携先】と連携をとりながら取り組みを進めるものもある。これらについても、各行動計画が、主にどの【連携先】と取り組みを進めていくのかは、添付資料「島原半島関係組織との連携項目の整理一覧」に整理している。

上記推進体制を整理したイメージ図は、次のとおり。



なお、各行動計画の実施時期については、当面5～10年で達成すべき目標を「5 雲仙地域の将来ビジョンを実現するための行動計画」に、その後も含めた実施時期を添付資料「行動計画実施時期整理表」に示しているが、特に取り組みの当初においては、その多くを一度に実現しようとすることは困難である。そこで、まず着手する行動計画を絞り込み、重点的に取り組みを進めることで具体的な行動を示し、本取り組みへの参加者や賛同者を増やしなが体制を充実させ、雲仙プラン100の実現性を高めることとする。

まず着手する行動計画のカテゴリーは次の10項目とする。

- ① 島原半島あるもの探しの実施（相互理解の促進）
- ② 島原半島フェノロジーカレンダーの作成・活用（島原半島への誘いと地産地消を目指して）
- ③ アクセス道路の景観改善（具体的行動が見えるところから）
- ④ 爛付けのエコ・一元化と地獄景観の改善
- ⑤ 仁田峠パーク&ライドの実現に向けた取り組み（実証実験から本格実施に向けて）
- ⑥ 牧羊による放牧・草原景観の維持
- ⑦ 山のアクティビティーの充実
- ⑧ 雲仙全体（旅館、商店、飲食店等）の連携によるまち歩きの促進
- ⑨ SNS（Facebook等）や広報誌「雲仙ING」を活用した、地域内情報共有と地域外情報発信の強化
- ⑩ 雲仙や島原半島を知り伝えられる雲仙人の育成

《添付資料》

●行動計画体系図

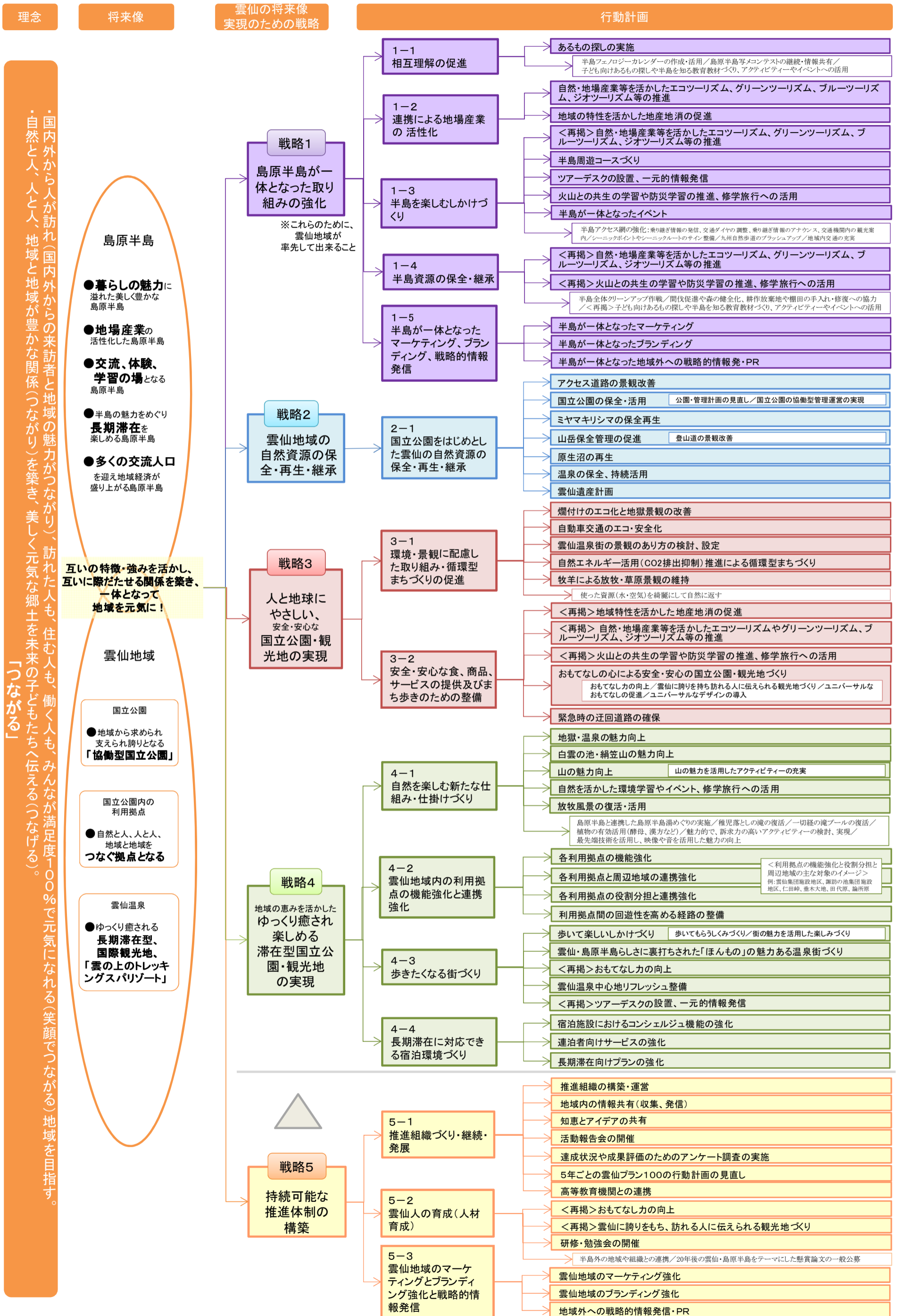
理念、将来像、基本戦略、行動計画の体系図。

●島原半島関係組織との連携項目の整理一覧

各行動計画が、主にどの【連携先】と取り組みを進めていくのかを整理した一覧。

●行動計画実施時期整理表

各行動計画の「開始時期」、「準備時期」、「集中的に取り組む時期」、「第2段階などの育てる時期」、「取り組み続けることで成果を定着させ各行動計画の本来の目標を達成させていく時期」等を整理したもの。



(添付) 島原半島関係組織との連携項目の整理 一覧

	予算	組織							
		島原半島観光 連盟	がまだすネット	ジオパーク推進 連絡協議会	雲仙市観光協 議会	各観光協会	1次、2次産業 界	各種市民団体	その他
基本戦略1	あるもの探しの実施	A							
	半島フェロロジーカレンダーの作成・活用	B							
	島原半島写真コンテストの継続・情報共有	A							
	子ども向けあるもの探しや半島を知る教育教材づくり、アクティビティやイベントへの活用	A~B							
	自然・地場産業等を活かしたエコツーリズム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進	B							
	地域の特性を活かした地産地消の促進	B							
	半島周遊コースづくり	A							
	ツアーデスクの設置、一元的情報発信	B							
	火山との共生の学習や防災学習の推進、修学旅行への活用	B							
	半島が一体となったイベント	B~C							
	半島アクセス網の強化	A~B							
	乗り継ぎ情報の発信、交通ダイヤの調整、乗り継ぎ情報のアナウンス、交通機関内の観光案内	A~B							
	シーニックポイントやシーニックルートのサイン整備	C							長崎県(道路部局)
	九州自然歩道のブラッシュアップ 情報発信	A							
	九州自然歩道のブラッシュアップ 他トレイルとの接続	C							
地域内交通の充実	C~D								
半島全体でのクリーンアップ作戦	A								
間伐の促進や森の健全化、耕作放棄地や棚田の手入れ・修復への協力	B								
半島が一体となったマーケティング	B								
半島が一体となったブランディング	B								
半島が一体となった地域外への戦略的情報発信・PR	C								
基本戦略2 2-1	アクセス道路の景観改善	A~B							
	国立公園の保全・活用 公園・管理計画の見直し	A							
	国立公園の協働型管理運営の実現 市民参加、ボランティア活動の活性化	A							
	ミヤマキリシマの保全再生	A~B							
	山岳保全管理の促進	A~B							
	登山道の景観改善	A~B							
	原生沼の再生	B~C							
	温泉の保全、持続活用	B~C							
	雲仙遺産計画	A							
	燻付けのエコ化と地獄景観の改善	A~D							
基本戦略3 3-1 3-2	自動車交通のエコ・安全化 パーク&ライドの本格実施の検討	C							
	駐車場整備、シャトルバスエコ化	D							
	電気自転車、シェアカー貸出促進	A~B							
	電気自動車の導入	C~D							長崎県(産業振興部局)
	雲仙温泉街の景観のあり方の検討、設定	A							
	自然エネルギー活用(CO2排出抑制)推進による循環型まちづくり	C~D							
	牧羊による放牧・草原景観の維持	B							
	使った資源(水・空気)を綺麗にして自然に戻す	A~B							
	おもてなしの心による安全・安心の国立公園・観光地づくり おもてなし力の向上	A~B							
	雲仙に誇りを持ち訪れる人に伝えられる観光地づくり ユニバーサルなおもてなしの促進	A~B							
ユニバーサルなデザインの導入	C~D							長崎県(道路部局)	
基本戦略4 4-1	緊急時の迂回道路の確保	D							
	地獄・温泉の魅力向上 体験園路整備	C~D							
	アクティビティの開発実施、積極的活用	A~B							
	蒸し湯整備、仕組みづくり	B							
	湯めぐり、温泉ソムリエ等温泉活用	A~B							
	雲仙温泉の特徴を良く表した場所創出	C~D							
	白雲の池の魅力向上 アクティビティの開発実施	A~B							
	再整備、通景伐採	C~D							
	綱笠山の魅力向上 アクティビティの開発実施	A~B							
	再整備、通景伐採	C~D							
	山の魅力向上 音賀岳新ルート整備	D							
	霧水期の仁田峠交通の確保	A							
	山道具の貸し出し	B							
	山のシンボジウム	B							
	山の魅力を活用したアクティビティの充実 山のモデルコースづくり	A~B							
モデルコース、ビュースポットの魅力向上	B								
雲仙の涼しさの活用	A~B								
雲仙の紅葉の活用	A~B								
雲仙の霧水の活用	A~B								
雲仙の霧の活用	A~B								
雲仙の野鳥の活用	A~B								
雲仙の花の活用	A~B								
雲仙の星の活用	A~B								
自然を活かした環境学習やイベント、修学旅行への活用 自然や街の魅力を活用したイベント	B								
放牧風景の復活・活用	B								
島原半島と連携した島原半島湯めぐりの実施	B								
稚児落としの滝の復活	B								
一切経の滝プールの復活	B								
植物の有効活用(酵母、漢方など)	B								
魅力的で、訴求力の高いアクティビティの検討、実現	B								
最先端技術を活用し、映像や音を活用した魅力の向上	B~C								
基本戦略4 4-2	各利用拠点の機能強化	A~B							
	必要に応じた改善、整備の検討	A~D							
	各利用拠点と周辺地域の連携強化	A~B							
	各利用拠点の役割分担と連携強化	A~B							
	利用拠点間の回遊性を高める経路の整備	A							長崎県(地域振興部局)
基本戦略4 4-3	歩いて楽しいしあけづくり 歩いてもらうしくみづくり(湯めぐり、ホテルめぐり)	A~B							
	街の魅力を活用した楽しみづくり 雲仙地域内のコース、魅力づくり	B~C							
	雲仙らしい文化・芸術の活動拠点創出	B~C							
	自然を活かした環境学習やイベント、修学旅行への活用 自然や街の魅力を活用したイベント	B							
	雲仙・島原半島らしさに裏打ちされた「ほんもの」の魅力ある温泉街づくり 島原半島ショーウィンドウ化、チャレンジショップ、オープンカフェ、魅力的商業空間づくり	B							
	一木一草運動	A~B							
	魅力的な温泉街の街並み、空間づくり、電線地中化、幹線道路の印象緩和、廃屋の撤去	C~D							
雲仙温泉中心地リフレッシュ整備	C~D								
基本戦略4 4-4	宿泊施設におけるコンシェルジュ機能の強化	A~B							
	連泊者向けサービスの強化	B							
	長期滞在向けプランの強化	B							
	推進組織の構築・運営	A							
基本戦略5 5-1 5-3	地域内の情報共有(収集、発信)	A~B							
	知恵とアイデアの共有	A							
	活動報告会の開催	A							
	達成状況や成果評価のためのアンケート調査の実施	A~B							
	5年ごとの雲仙プラン100の行動計画の見直し	A~B							
	高等教育機関との連携	A							長崎県(全般)
	雲仙地域のマーケティング強化 勉強会	A							
	雲仙地域のマーケティング強化	A							
	雲仙地域のブランディング強化 勉強会	A							
	雲仙地域のブランディング強化	A							
地域外への戦略的情報発信・PR	B								
基本戦略5 5-2	研修・勉強会の開催	A~B							
	半島外の地域や組織との連携	B							
	20年後の雲仙・島原半島をテーマにした懸賞論文の一般公募	A							
すぐに着手するもの	A	0~数万円						主な連携組織	
既に実施しているもの or 実施主体に明確に進めてもらえるもの	B	数十万円						主な関係組織	
環境省が行うもの	C	数百万円							
太字・・・収益に結びつくもの	D	数千円~						※詳細は、雲仙プラン100地域づくり委員会にて検討・決定	

